

未来へつなぐあだちプロジェクト

足立区子どもの貧困対策実施計画

子どもの貧困に関する指標の推移

平成31年2月作成

目 次

指標番号	指 標 名	ページ
1	「足立区基礎学力定着に関する総合調査(学習定着度調査)」の児童・生徒の通過率	2
2-1	「足立区基礎学力定着に関する総合調査(学習定着度調査)」の就学援助(要保護、準要保護)受給世帯の児童・生徒の通過率【小学校】	3
2-2	「足立区基礎学力定着に関する総合調査(学習定着度調査)」の就学援助(要保護、準要保護)受給世帯の児童・生徒の通過率【中学校】	4
3-1	「全国学力・学習状況調査」の児童・生徒の平均正答率【小学校】	5
3-2	「全国学力・学習状況調査」の児童・生徒の平均正答率【中学校】	6
4-1	「全国学力・学習状況調査」の就学援助(要保護、準要保護)受給世帯の児童・生徒の平均正答率【小学校】	7
4-2	「全国学力・学習状況調査」の就学援助(要保護、準要保護)受給世帯の児童・生徒の平均正答率【中学校】	8
5	「足立区基礎学力定着に関する総合調査(学習定着度調査)」の正答率80%(高得点層)の児童・生徒、40%(低得点層)の児童・生徒の割合	9
6	「足立区基礎学力定着に関する総合調査(学習意識調査)」の「自分にはよいところがあると思う」の質問に肯定的に回答した児童・生徒の割合	9
7	区立中学校の高校進学率及び進路内訳(全日制、定時制、通信制、その他の進学率)	10
8	生活保護世帯の子どもの高校等進学率及び進路内訳(全日制、定時制、通信制、その他の進学率)	11
9	区内都立高校の中途退学者数(率)(全日制、定時制)	12
10	生活保護世帯の子どもの高校中途退学者数(率)(全日制、定時制)	13
11	区内都立高校の卒業時の進路未決定者数(率)	14
12	生活保護世帯の子どもの高校卒業時の進路未決定者数(率)	14
13	小学校・中学校の不登校者数(率)	15
14	早期(37週未満)に産まれた子どもの割合	15
15	乳児健診のアンケートで「子育てを負担に感じたりイライラしたりする」と回答した人の割合	16
16	養育困難世帯の発生率	16
17	養育困難世帯の解決率	17
18	歯科健診でむし歯ありの判定を受けた子どもの割合	17
19	歯科健診で未処置のむし歯がある子どもの割合	18
20-1	子どもの朝ごはん摂取率(5歳児から中学2年生)	18
20-2	子どもの朝ごはん摂取率(小学2年生・小学4年生 全国との比較)	19
20-3	子どもの朝ごはん摂取率(小学6年生・中学2年生 全国との比較)	19
21-1	就学援助(要保護、準要保護)受給世帯の児童・生徒の朝ごはん摂取率(小学2年生・小学4年生)	20
21-2	就学援助(要保護、準要保護)受給世帯の児童・生徒の朝ごはん摂取率(小学6年生・中学2年生)	20
22	ひとり親に対する就業支援事業による就業率及び正規雇用率	21
23	児童扶養手当を受給しているひとり親の就業率及び正規雇用率	21
24	就学援助率	22

子どもの貧困に関する指標について

足立区では、「未来へつなぐ あだちプロジェクト（足立区子どもの貧困対策実施計画）」を平成27年度に策定し、その中で、計画の実効性を担保するため、子どもの貧困に関する24の指標を設定した。その数値変化を確認することで、状況を把握するとともに、子どもの貧困対策の評価の際に、施策の実施状況や効果を検証していく。

子どもの貧困に関する指標の概要（一部抜粋）

- ◆「足立区基礎学力定着に関する総合調査（学習定着度調査）」の就学援助受給世帯の児童・生徒の通過率 ⇒P3、P4

小学校・中学校ともに、要保護世帯の児童・生徒の数値が一番低く、区全体や準要保護世帯の児童・生徒との差が大きく開いている。

- ◆「全国学力・学習状況調査」の児童・生徒の平均正答率 ⇒P5、P6

小学校は全国平均値を上回っている。中学校は全国平均値を下回っているが、全国との差は、縮まってきている。

- ◆「足立区基礎学力定着に関する総合調査（学習意識調査）」の「自分にはよいところがあると思う」との質問に肯定的に回答した児童・生徒の割合 ⇒P9

小学校・中学校ともに、数値に若干の上昇が見られる。特に中学生が上昇している。

- ◆区立中学校の高校進学率及び進路内訳 ⇒P10

全日制への進学率に大きな変化はないものの、23区との差は縮まってきている。進路内訳の傾向としては、定時制に進学する生徒の割合が減り、通信制の割合が増えている。

- ◆生活保護世帯の子どもの高校等進学率及び進路内訳 ⇒P11

生活保護世帯の高校進学率は、年々上昇している。全日制課程への進学率の区全体との差は、縮まってきている。

- ◆区内都立高校の中途退学者数（率） ⇒P12

中途退学者数は減少傾向にはあるが、定時制に通う生徒の中途退学率は年度によって増減が大きい。

- ◆早期（37週未満）に産まれた子どもの割合 ⇒P15

東京都全体の値と比較すると高い状況にあるが、年々減少している。

- ◆歯科検診で未処置の虫歯がある子どもの割合 ⇒P18

若干増減しながら減少しているが、23区の数値と比較すると、いまだに差が大きい。

- ◆就学援助率 ⇒P22

子どもの貧困に関する指標の推移

1 「足立区基礎学力定着に関する総合調査(学習定着度調査)」の児童・生徒の通過率

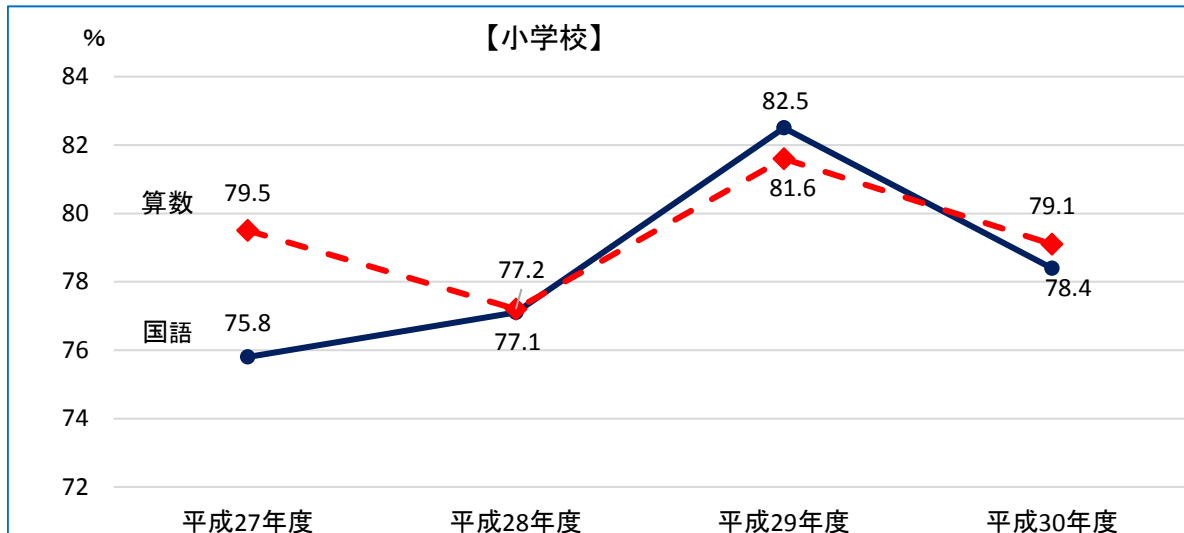
【データ】足立区基礎学力定着に関する総合調査(学習定着度調査)

【対象】区立小学校2年生～6年生・中学校 全学年

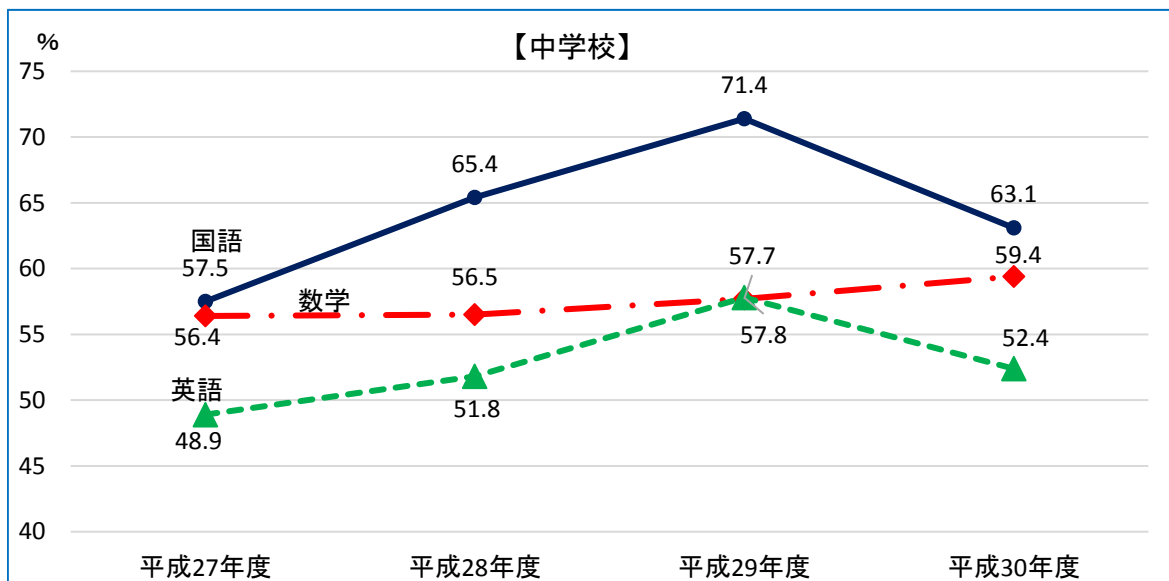
【期間】毎年

【目的】小・中学校の児童・生徒の基礎学力の定着度を計る

* 通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合



「足立区基礎学力定着に関する総合調査(学習定着度調査)」の児童の通過率は、年度によって増減はあるが、上昇傾向にある。



「足立区基礎学力定着に関する総合調査(学習定着度調査)」の生徒の通過率は、科目によって差はあるものの、上昇傾向にある。

2-1 「足立区基礎学力定着に関する総合調査(学習定着度調査)」の就学援助(要保護、準要保護)受給世帯の児童・生徒の通過率【小学校】

【データ】足立区基礎学力定着に関する総合調査(学習定着度調査)より抽出

【対象】区立小学校2年生～6年生・中学校 全学年

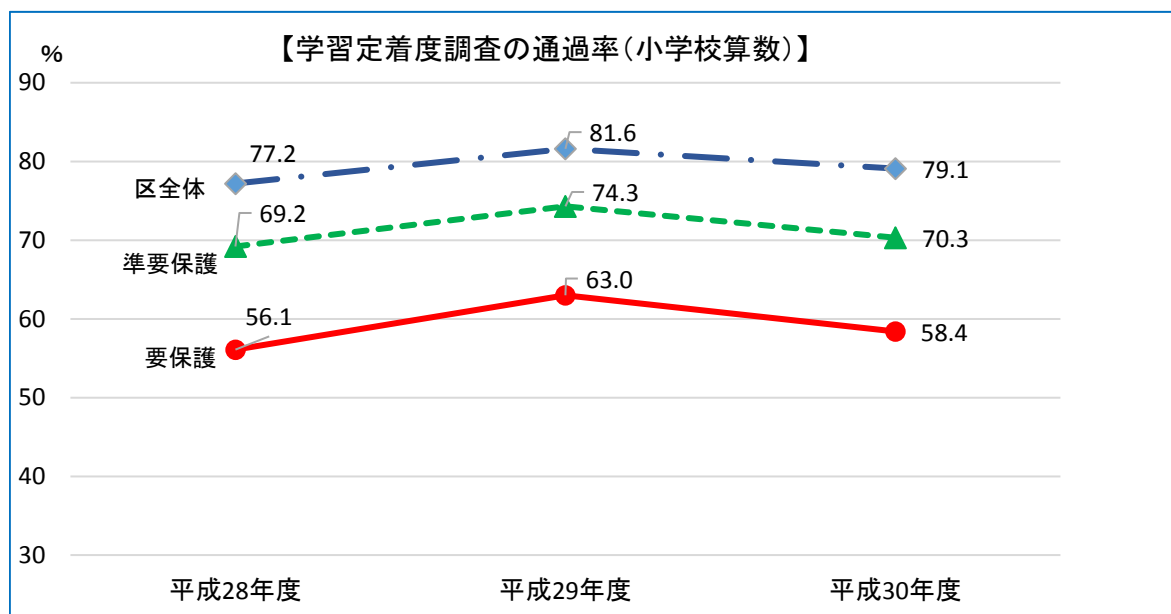
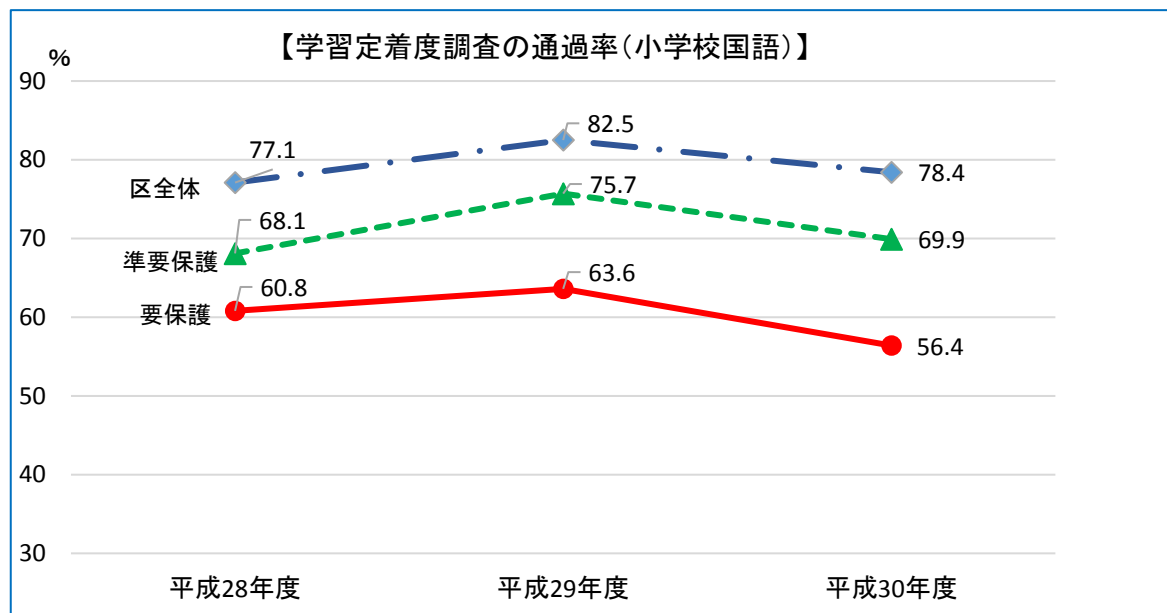
【期間】毎年

【目的】就学援助受給世帯の児童・生徒の基礎学力の定着度を計る

* 通過率: 目標値以上の正答があった児童・生徒の割合

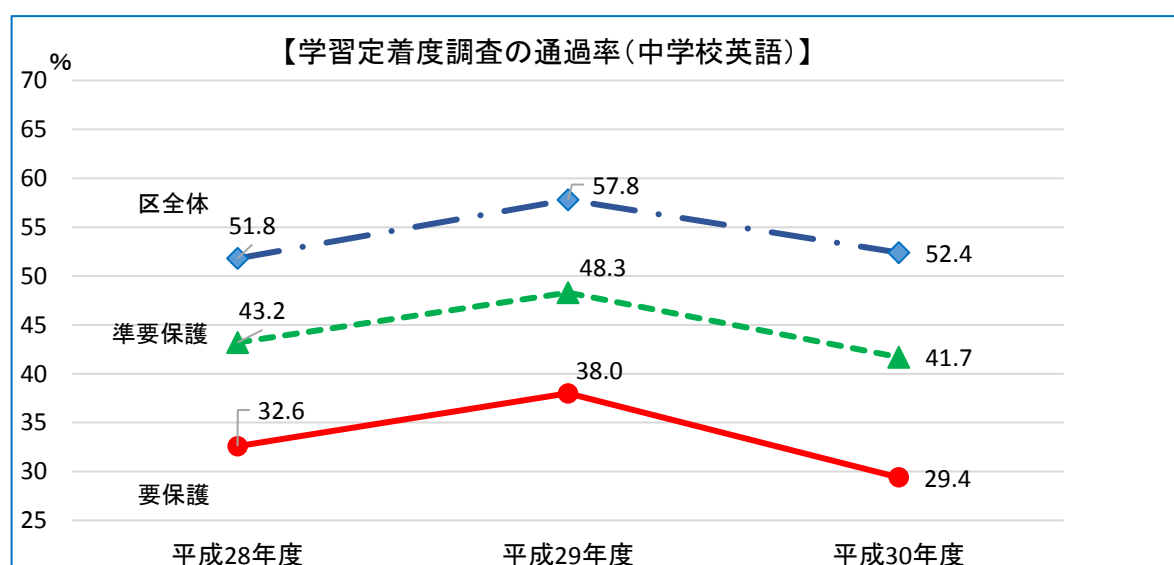
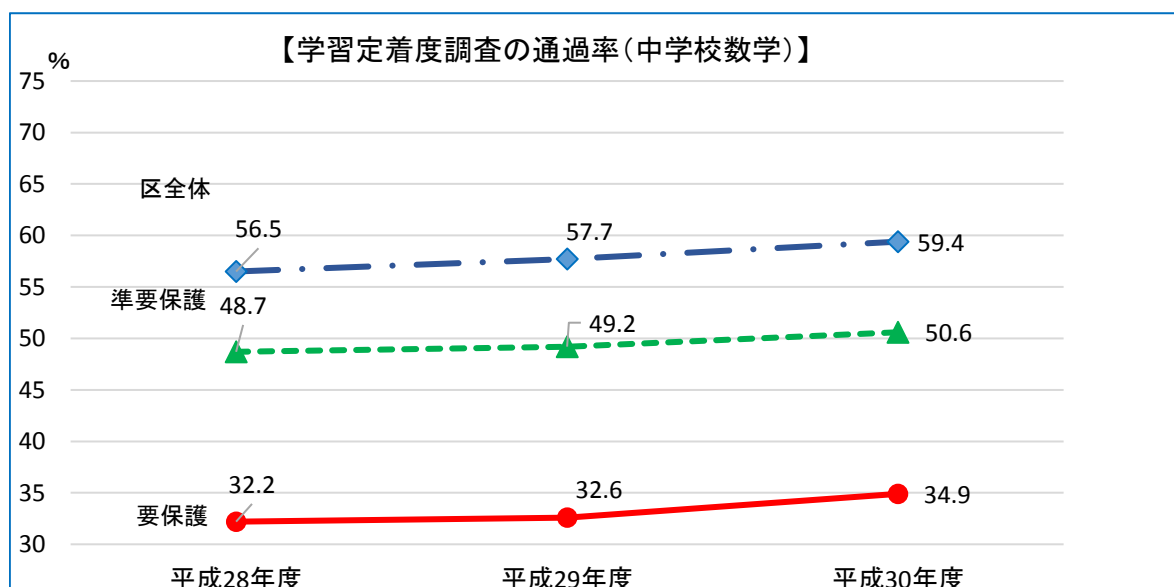
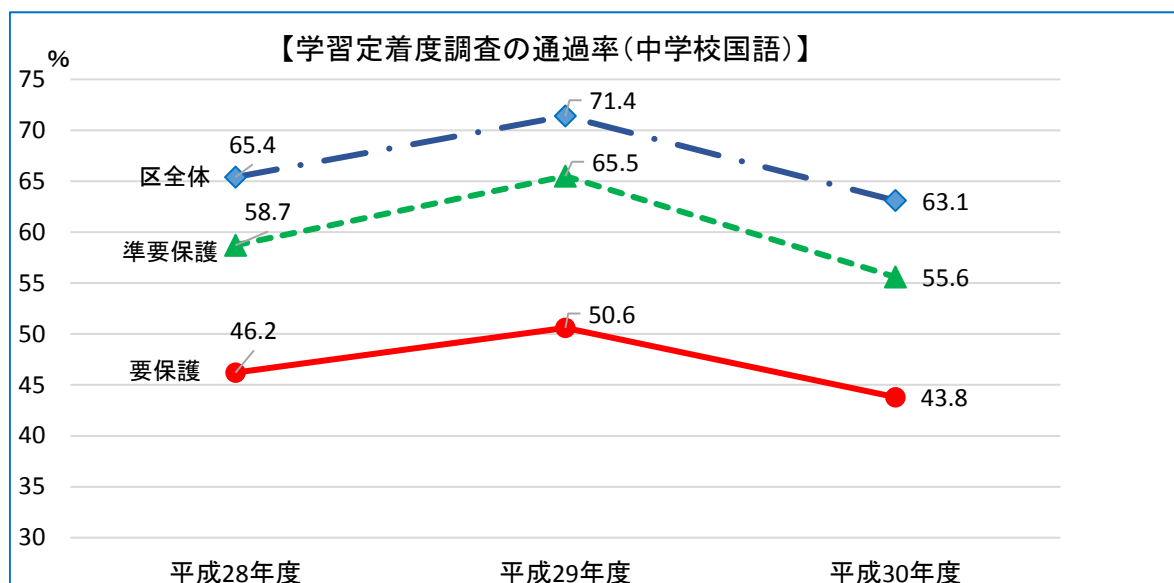
要保護: 就学援助受給世帯のうち、生活保護受給世帯の児童・生徒

準要保護: 就学援助受給世帯のうち、生活保護受給世帯以外の児童・生徒



年度に関わらず、要保護児童の通過率が一番低くなっている。国語は要保護児童と区全体の通過率の差が広がっている。

2-2 「足立区基礎学力定着に関する総合調査(学習定着度調査)」の就学援助 (要保護、準要保護)受給世帯の児童・生徒の通過率【中学校】

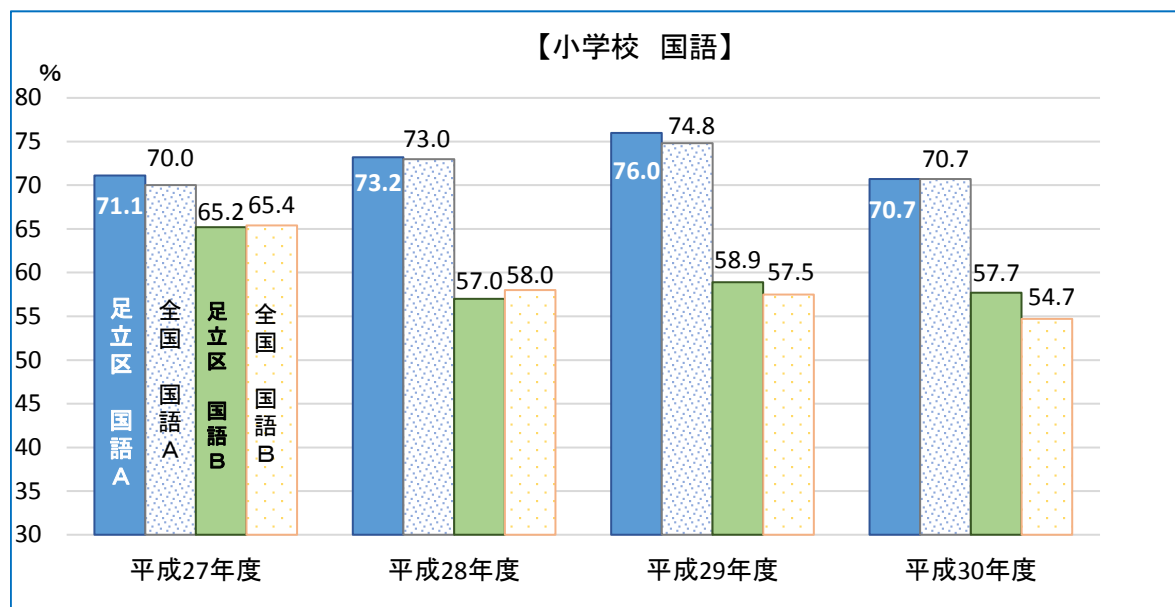


年度に関わらず、要保護生徒の通過率が一番低くなっている。特に、数学と英語の要保護生徒の通過率が非常に低くなっている。

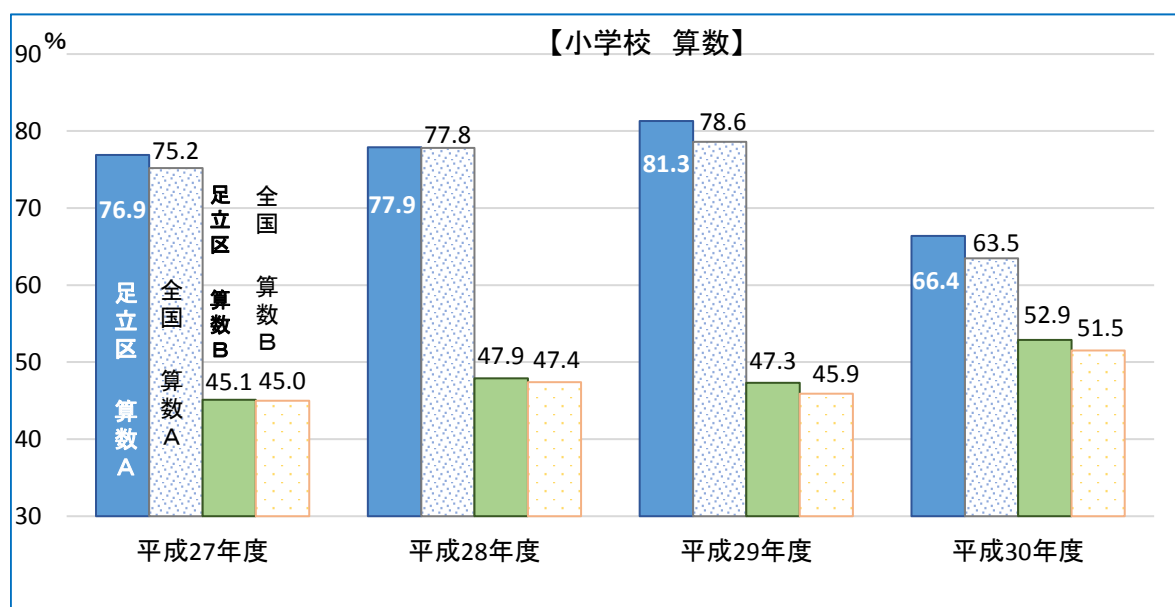
3-1 「全国学力・学習状況調査」の児童・生徒の平均正答率【小学校】

【データ】全国学力・学習状況調査
 【期 間】毎年
 【対 象】区立小学校6年生・中学校3年生
 【目 的】小・中学校の児童・生徒の学力を計る

*A問題：主に知識に関する問題
 B問題：主に活用に関する問題

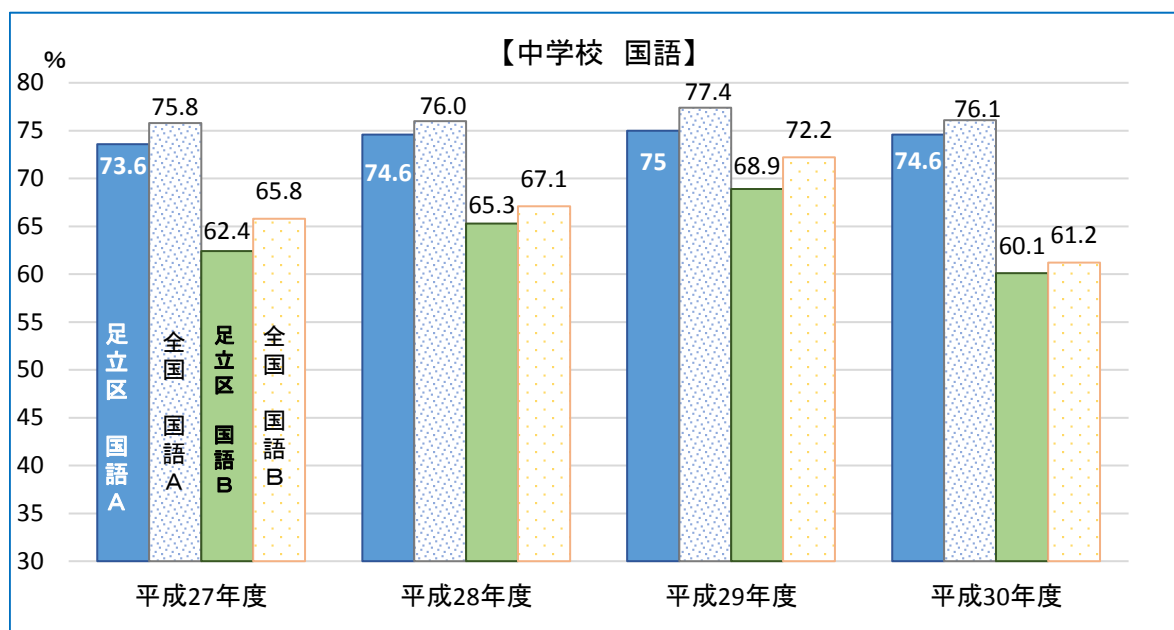


「全国学力・学習状況調査」小学校国語の平均正答率は、平成29年度と平成30年度は、全国平均を上回っている。特に応用問題である国語Bの平均正答率は、全国平均値との差を広げている。

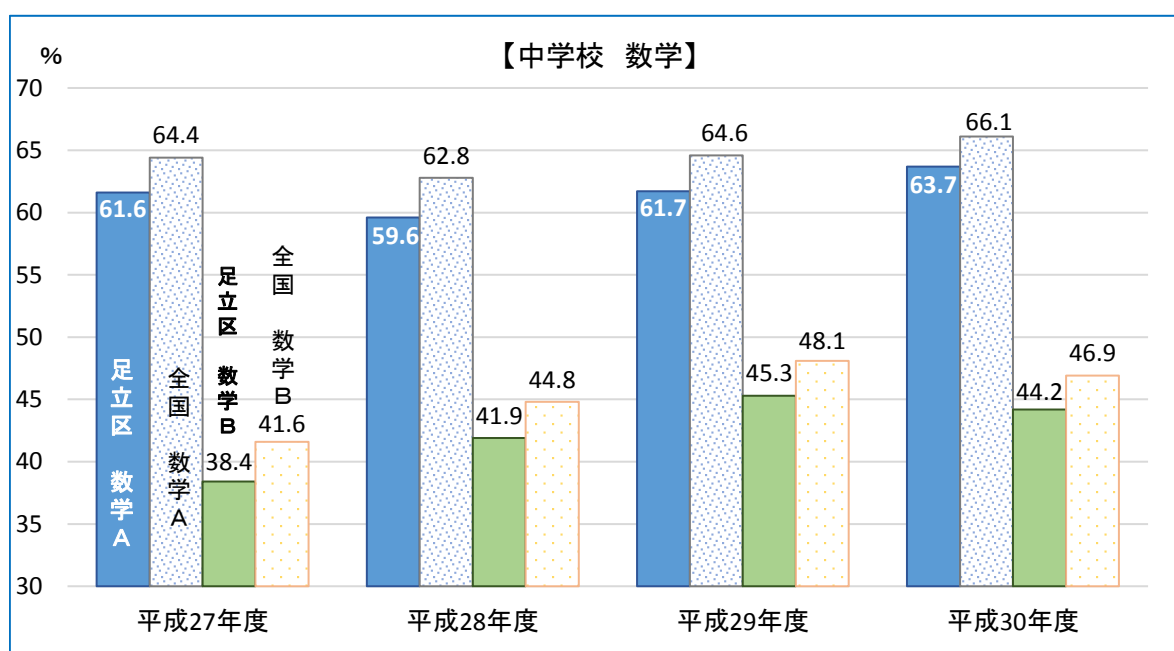


「全国学力・学習状況調査」小学校算数の平均正答率は平成27年度から全国平均を上回っており、全国平均値との差を広げている。

3-2 「全国学力・学習状況調査」の児童・生徒の平均正答率【中学校】



「全国学力・学習状況調査」中学校国語の平均正答率は、平成27年度から一貫して全国平均を下回っている。年度によって増減はあるものの、全国平均正答率との差は縮まっている。



「全国学力・学習状況調査」中学校数学の平均正答率は、一貫して全国平均を下回っているが、全国との差は若干縮まってきている。

4-1 「全国学力・学習状況調査」の就学援助(要保護、準要保護)受給世帯の児童・生徒の平均正答率【小学校】

【データ】全国学力・学習状況調査より抽出

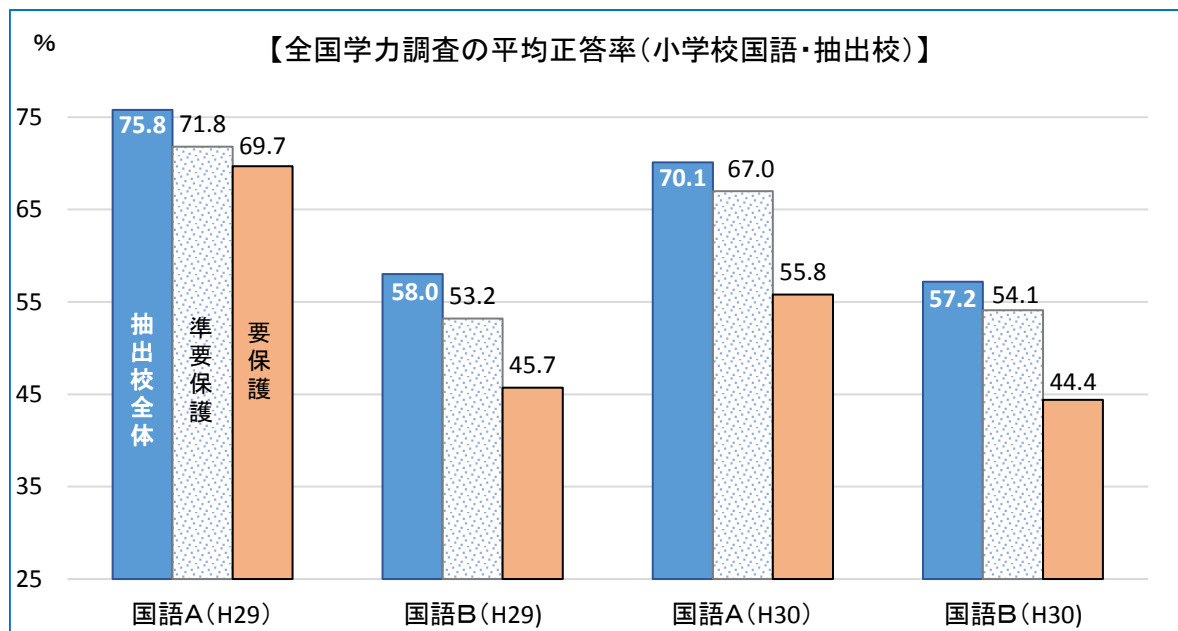
【対象】区立小学校6年生・中学校3年生(抽出)

【期間】毎年

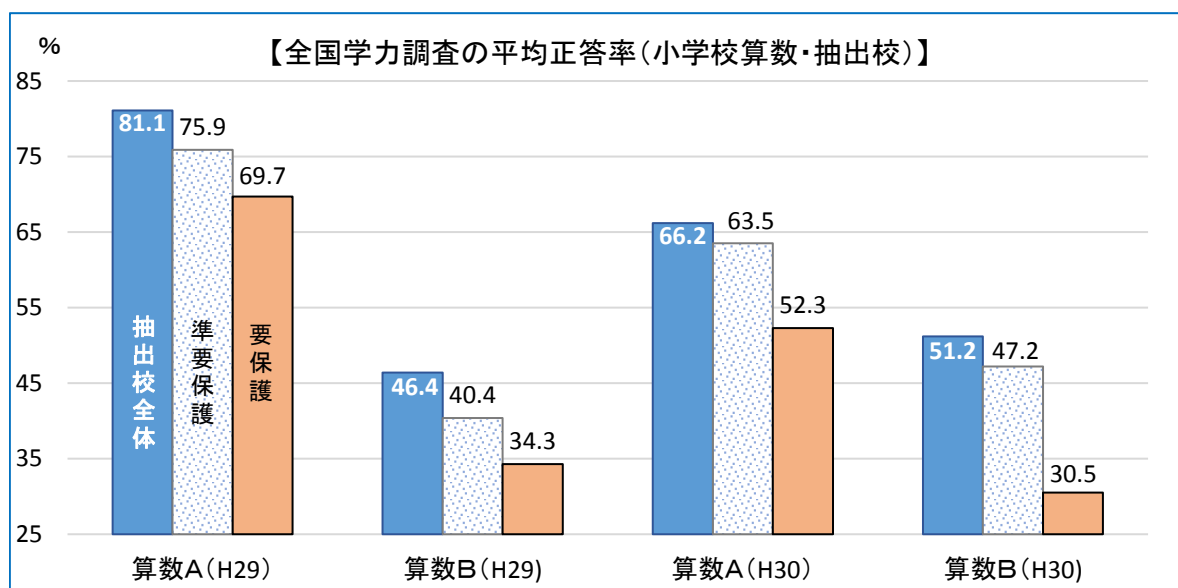
【目的】就学援助受給世帯の児童・生徒の学力を計る

*A問題:主に知識に関する問題

B問題:主に活用に関する問題

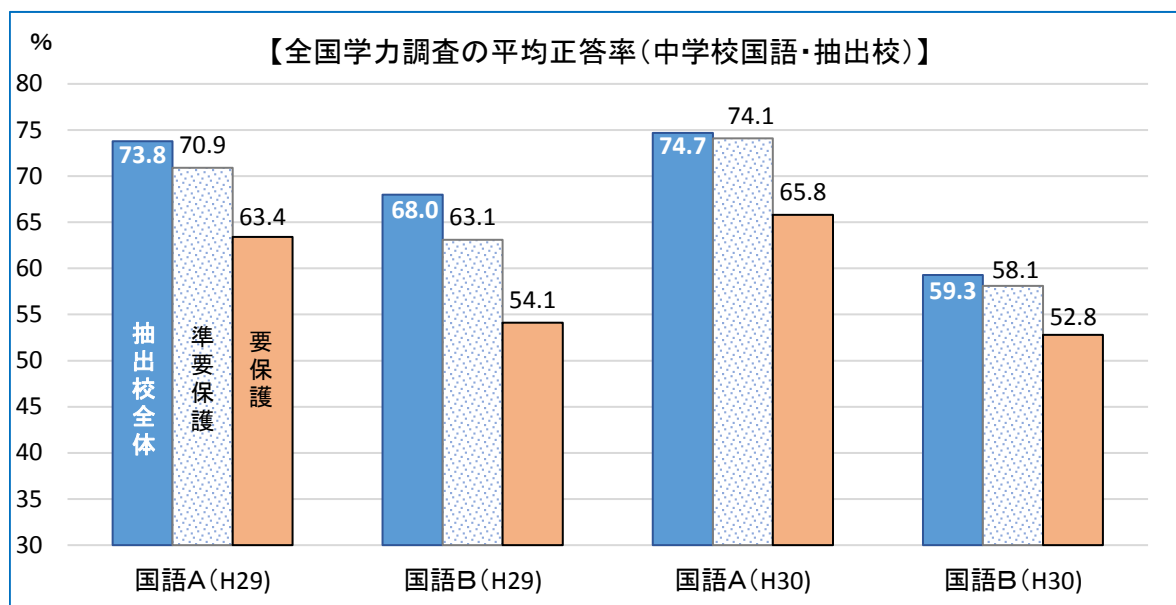


「全国学力・学習状況調査」小学校国語の平均正答率は、要保護世帯の児童が一番低く、特に活用問題である国語Bは大きく差が開いている。

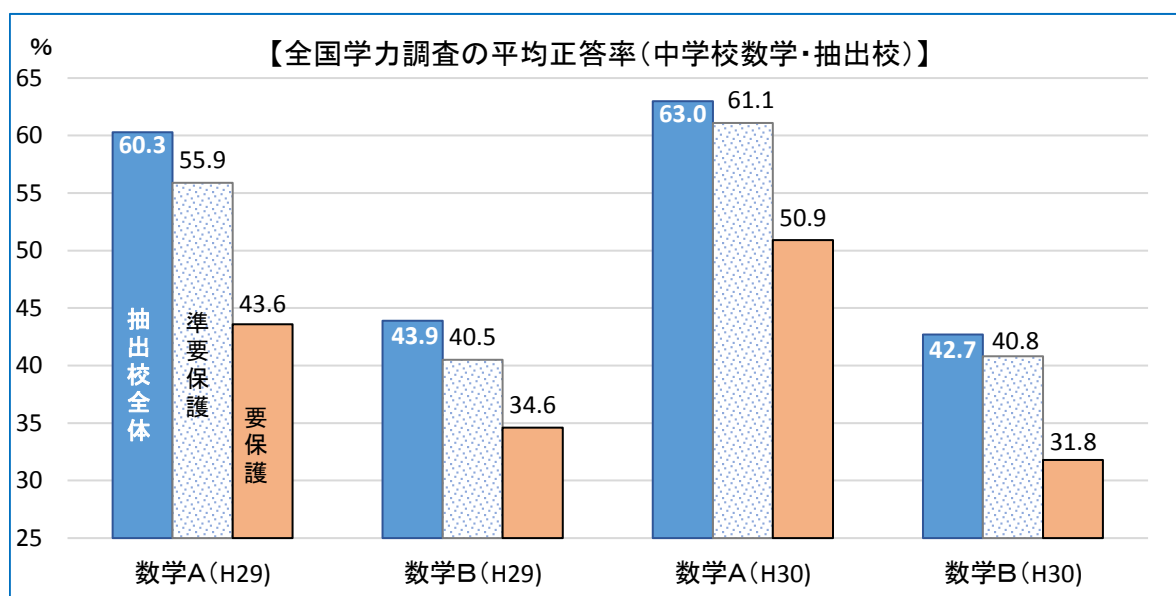


「全国学力・学習状況調査」小学校算数の平均正答率は、要保護世帯の児童が一番低い。基本的な問題である算数Aにおいても、要保護と足立区全体との差は大きく開いている。

4-2 「全国学力・学習状況調査」の就学援助(要保護、準要保護)受給世帯の児童・生徒の平均正答率【中学校】



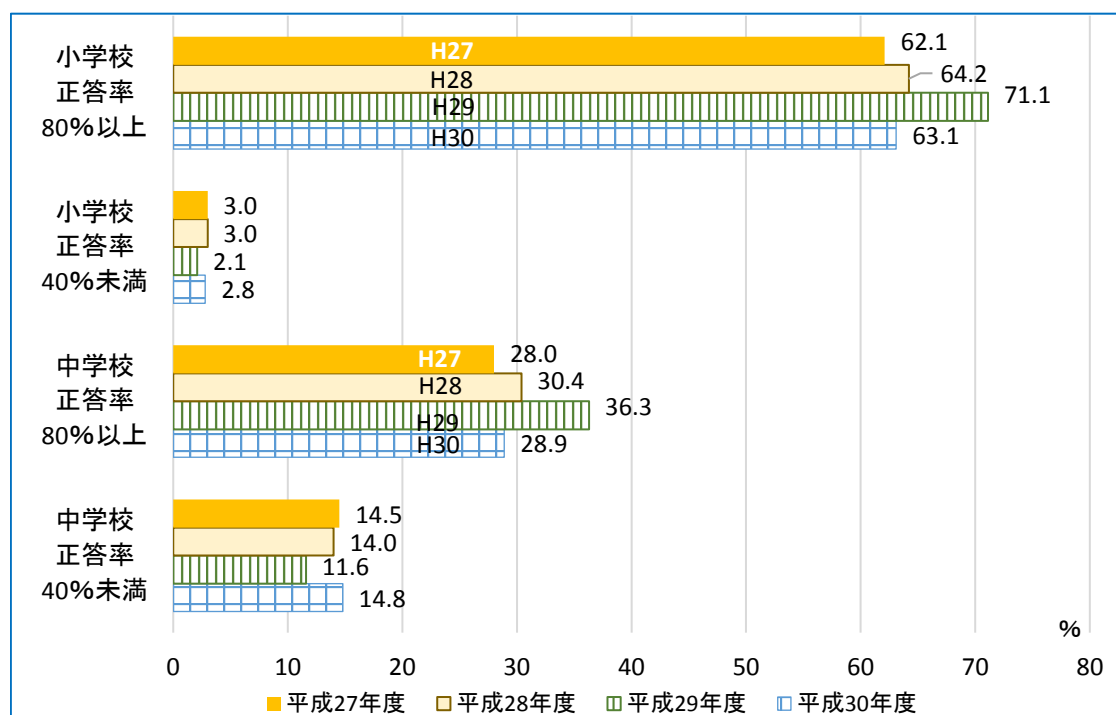
「全国学力・学習状況調査」中学校国語の平均正答率は、要保護世帯の生徒が一番低い。平成29年度と平成30年度を比較すると、要保護世帯と区全体の数値の差は縮まっている。



「全国学力・学習状況調査」中学校数学の平均正答率は、要保護世帯の生徒が一番低い。基本的な問題である数学Aにおいて、要保護と足立区全体との差が大きく開いている。

5 「足立区基礎学力定着に関する総合調査(学習定着度調査)」の 正答率80%(高得点層)の児童・生徒、40%(低得点層)の児童・生徒の割合

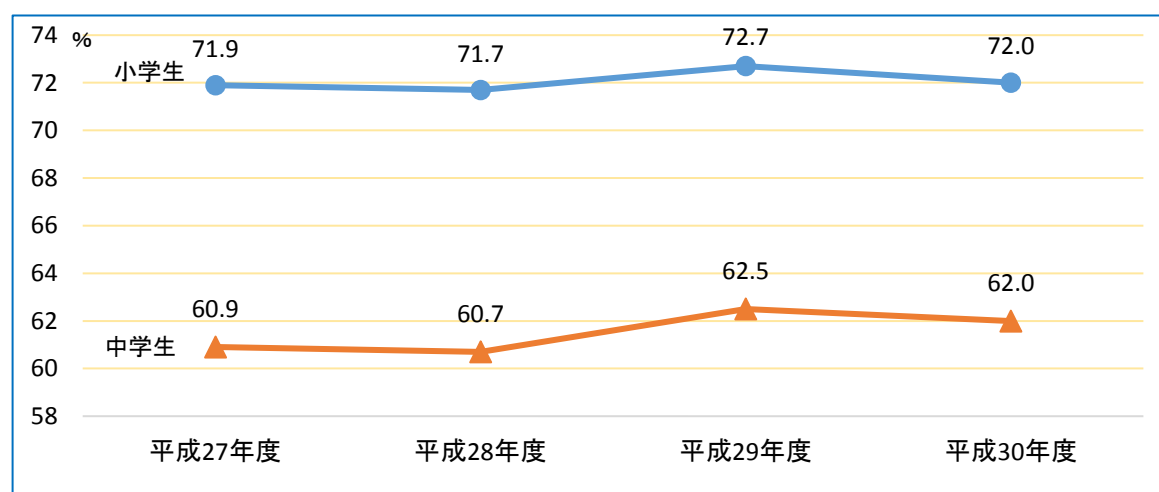
【データ】足立区基礎学力定着に関する総合調査(学習定着度調査)
 【対象】区立小学校2年生～6年生・中学校 全学年
 【期間】毎年
 【目的】小・中学校の児童・生徒の基礎学力の分布状況を把握する



足立区基礎学力定着に関する総合調査(学習定着度調査)」の小学校の高得点層の割合は、平成27～29年度にかけて上昇している。低得点層の割合は、平成29年度は若干減っているが、平均すると3%弱で大きな変化はない。中学校も小学校と同様の傾向である。

6 「足立区基礎学力定着に関する総合調査(学習意識調査)」の「自分にはよいところがあると思う」の質問に肯定的に回答した児童・生徒の割合

【データ】足立区基礎学力定着に関する総合調査(学習意識調査)
 【対象】区立小学校2年生～6年生・中学校 全学年
 【期間】毎年
 【目的】小・中学校の児童・生徒の自己肯定感を計る



足立区基礎学力定着に関する総合調査(学習意識調査)」で「自分にはよいところがあると思う」の質問に肯定的に回答した割合は、小学校は72%程度で若干の上昇が見られる。中学校は約60%から約62%へ上昇が見られる。

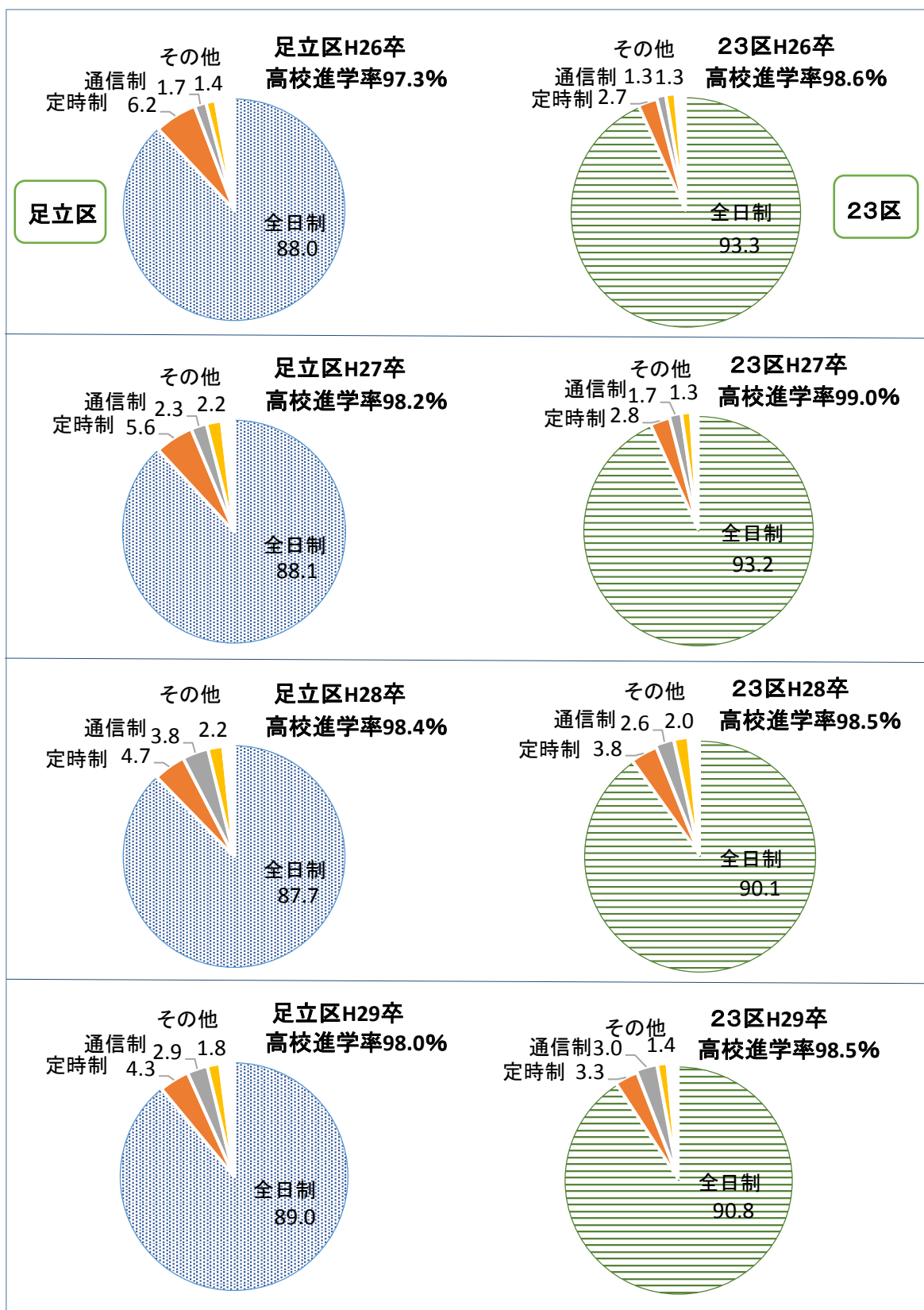
7 区立中学校の高校進学率及び進路内訳(全日制、定時制、通信制、その他の進学率)

【データ】公立学校統計調査、学校基本調査

【対象】区立中学校3年生

【期間】毎年

【目的】将来の所得を大きく左右する高校進学率を把握する



区立中学校の高校進学率は、全体としては23区に近づいている。全日制課程への進学率は、平成26年度は23区全体より約5ポイント低かったが、平成29年度には約2ポイントまで差を詰めている。

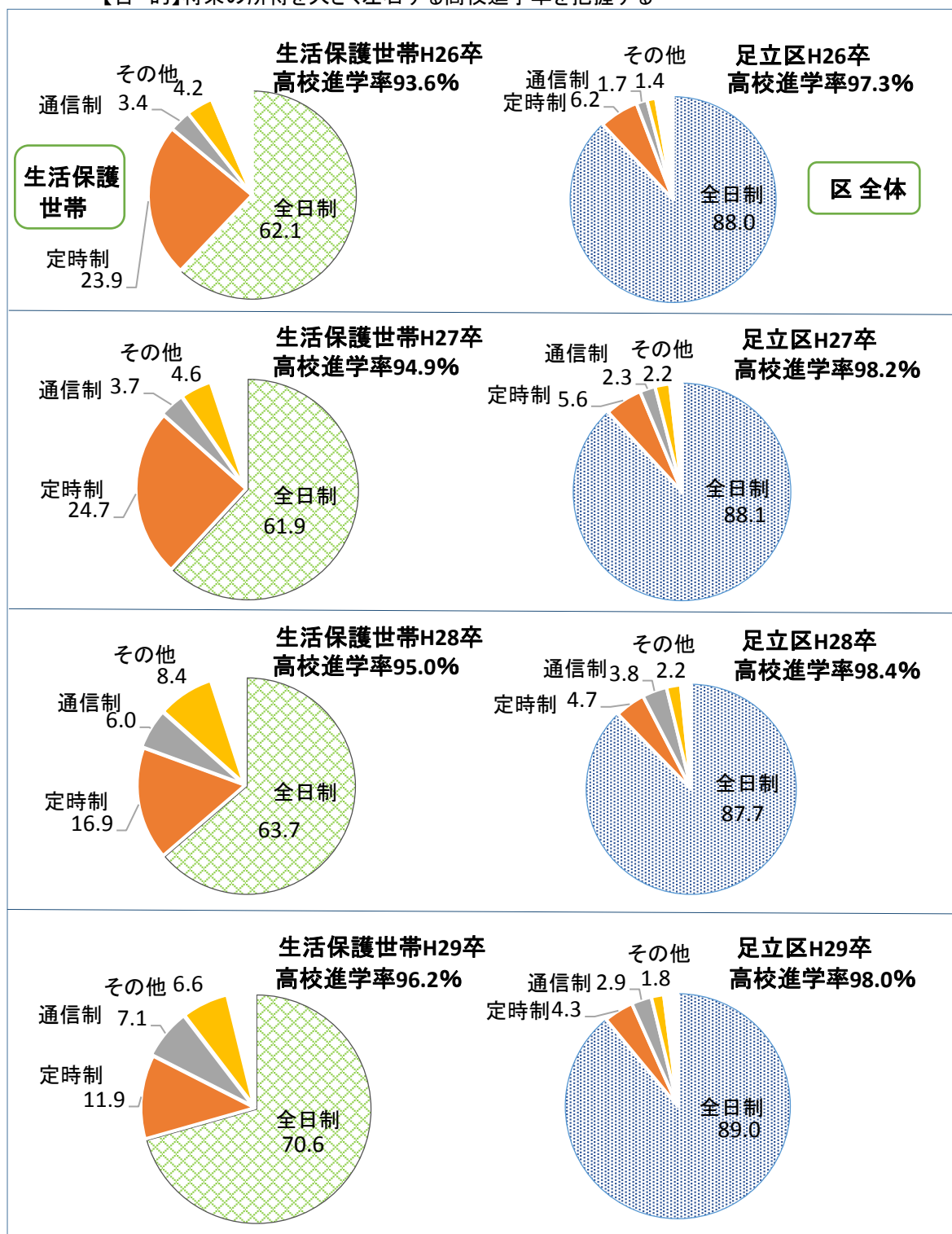
8 生活保護世帯の子ども的高校等進学率及び進路内訳(全日制、定時制、通信制、その他の進学率)

【データ】高校進学・就学継続支援プログラムによる調査

【対象】生活保護受給世帯の中学校3年生

【期間】毎年

【目的】将来の所得を大きく左右する高校進学率を把握する



生活保護世帯の高校進学率は、年々上昇している。

全日制課程への進学率は、平成26年度には区全体より約26ポイント低かったが、年々上昇し、平成29年度の差は約18ポイントとなっている。平成29年度の全日制課程への進学率は前年度より約7ポイント上昇し、定時制課程への進学率は約5ポイント減少している。

定時制課程への進学率は、減少傾向にあるが、区全体と比較すると、平成29年度は約8ポイントの差がある。

9 区内都立高校の中途退学者数(率)(全日制、定時制)

【データ】児童・生徒の問題行動等の実態について(東京都教育委員会)

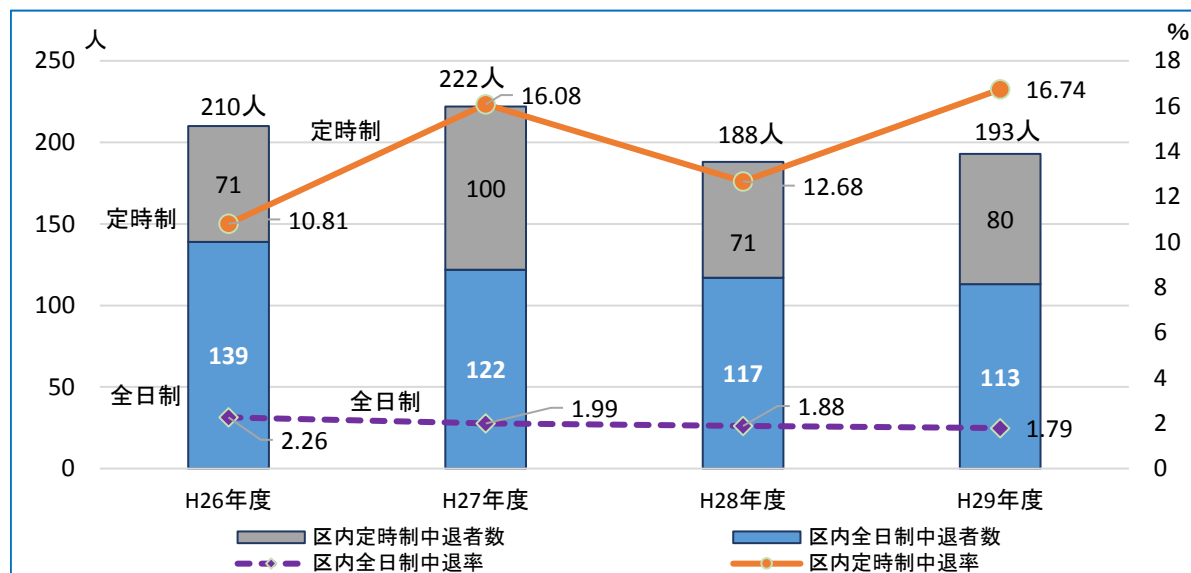
【対象】区内都立高校の生徒

* 区内にある都立高校であり、中途退学者には区外からの通学者も含む

【期間】毎年

【目的】無業者やアルバイト等の不安定就労となるリスクが高い青年の人数と中途退学の理由を把握する

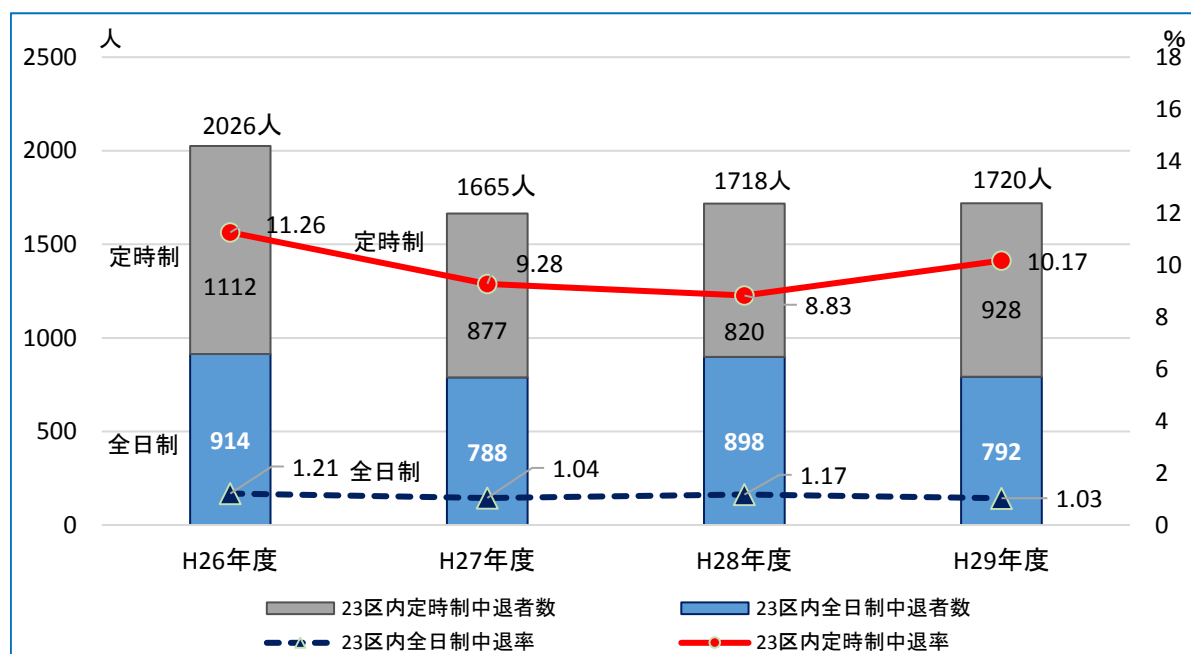
* 無業者: 学校等に通学せず、ふだん収入を得ることを目的とした定職を持っていない者



区内都立高校の中途退学者数は、全体の人数としては減少傾向にあるが、定時制課程生徒の中途退学率は年度によって増減が大きい。

下のグラフの23区内都立高校の中退率と比べると、全日制・定時制とも高い値になっている。

9の参考値 23区内都立高校の中途退学者数(率)(全日制、定時制)



23区内都立高校の中途退学者数は、年度によって人数の増減はあるが、全日制課程生徒の中退率は1%強で推移している。定時制課程生徒の中退率は、平成27年度から平成29年度にかけて減少したが、平成30年度は上昇し10%を越えている。

10 生活保護世帯の子ども的高校中途退学者数(率)(全日制、定時制)

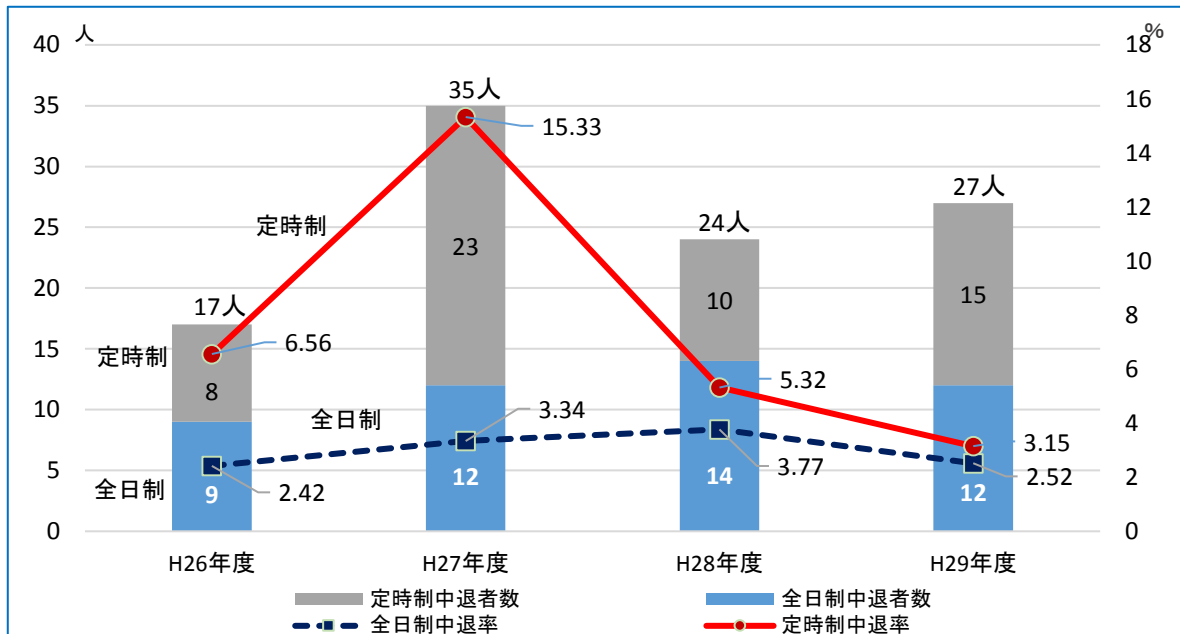
【データ】高校進学・就学継続支援プログラムによる調査

【対象】生活保護受給世帯の高校生

【期間】毎年

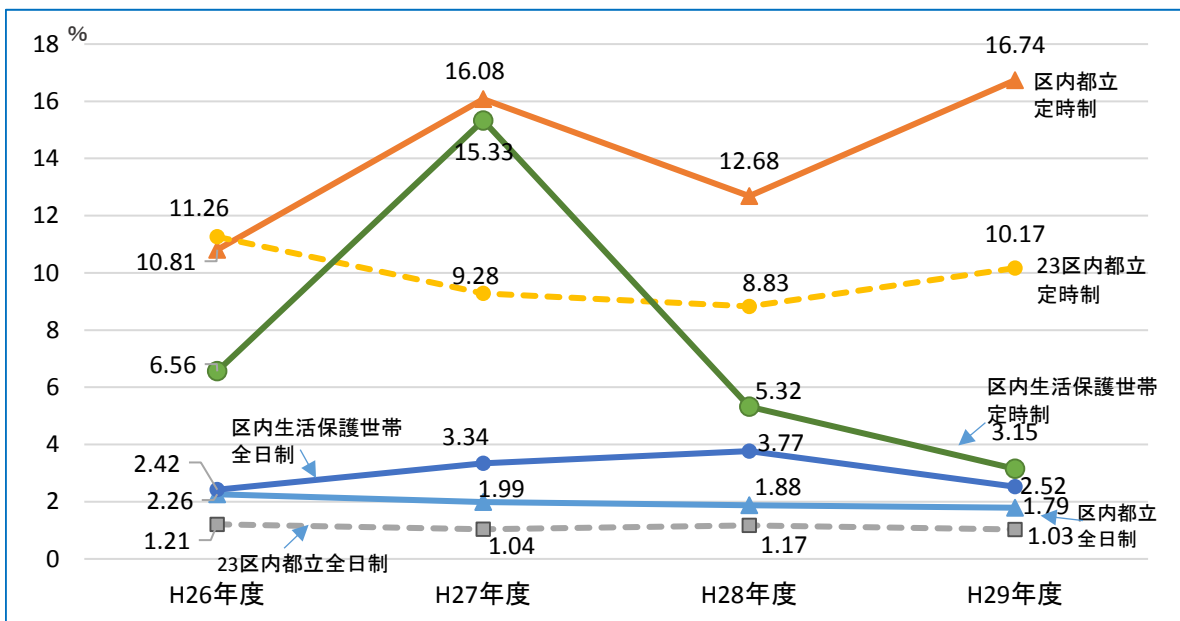
【目的】無業者やアルバイト等の不安定就労となるリスクが高い青年の人数と中途退学の理由を把握する

* 無業者: 学校等に通学せず、ふだん収入を得ることを目的とした定職を持っていない者



生活保護世帯の高校の中途退学者は、年度によって人数の増減は大きく出ているが、平成29年度は全日制・定時制課程ともに中退率は低い値となっている。

《参考》区内生活保護世帯、区内都立高校、23区内都立高校の中退率の比較



生活保護世帯の全日制課程の中退率は、区内都立高校の全日制課程の中退率より高くなっている。全日制課程は総じて平成28年度より平成29年度の中退率が下がっている。

定時制課程は年度によって中退率の変動が大きい。生活保護世帯の定時制課程の中退率は、区内都立高校定時制の中退率よりも低い。特に、平成28年度から平成29年度にかけて、区内都立高校及び23区都立高校の中退率が上がっているにもかかわらず、生活保護世帯の中退率は大きく減少している。

11 区内都立高校の卒業時の進路未決定者数(率)

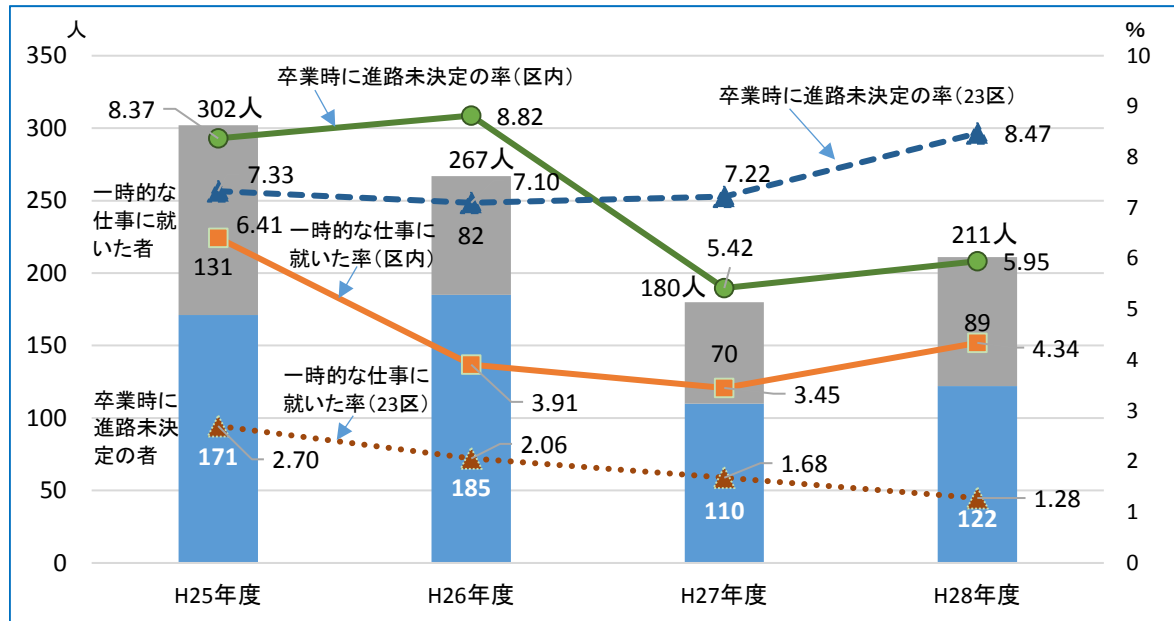
【データ】学校基本調査

【対象】区内都立高校の卒業年次生徒

【期間】毎年

【目的】無業者やアルバイト等の不安定就労のリスクが高い青年の人数を把握する

* 無業者：学校等に通学せず、ふだん収入を得ることを目的とした定職を持っていない者



区内都立高校の「卒業時の進路未決定者」は減少傾向にある。未決定者の率も減少し、平成28年度は23区全体の率を2.5ポイント下回っている。

区内都立高校の「一時的な仕事に就いた者」は減少傾向にあったものの、平成28年度に人数、割合ともに上昇した。

12 生活保護世帯の子ども的高校卒業時の進路未決定者数(率)

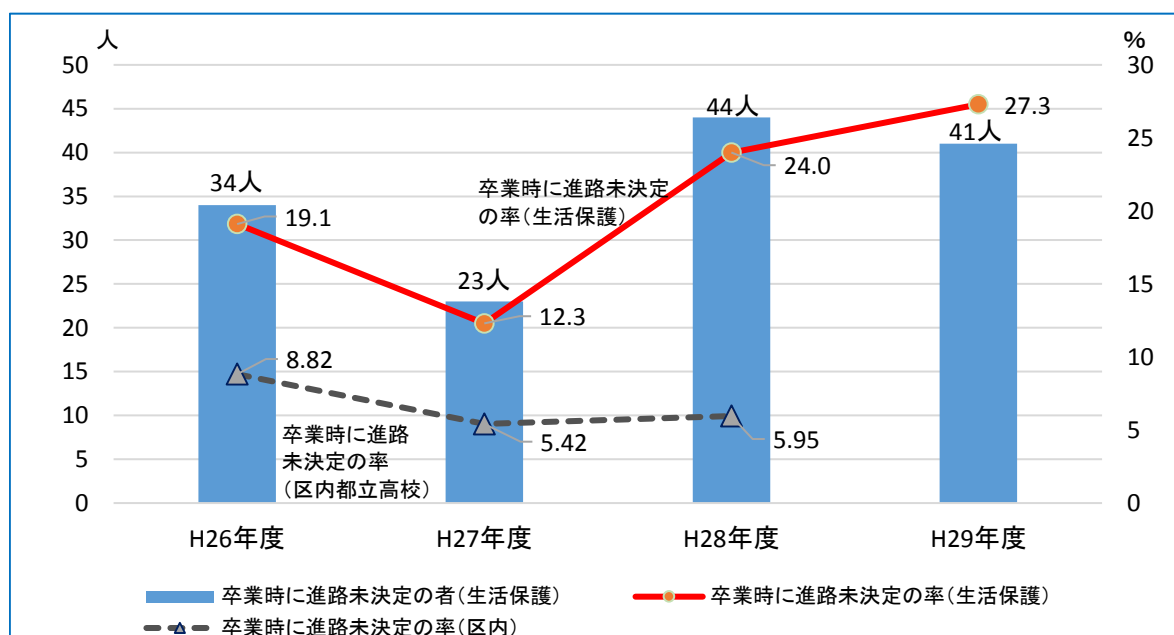
【データ】高校進学・就学継続支援プログラムによる調査

【対象】生活保護受給世帯の高校卒業年次生徒

【期間】毎年

【目的】無業者やアルバイト等の不安定就労のリスクが高い青年の人数を把握する

* 無業者：学校等に通学せず、ふだん収入を得ることを目的とした定職を持っていない者



生活保護世帯の高校卒業時の進路未決定者の数は増減を繰り返している。H28年度からは人数、割合とも上昇している。

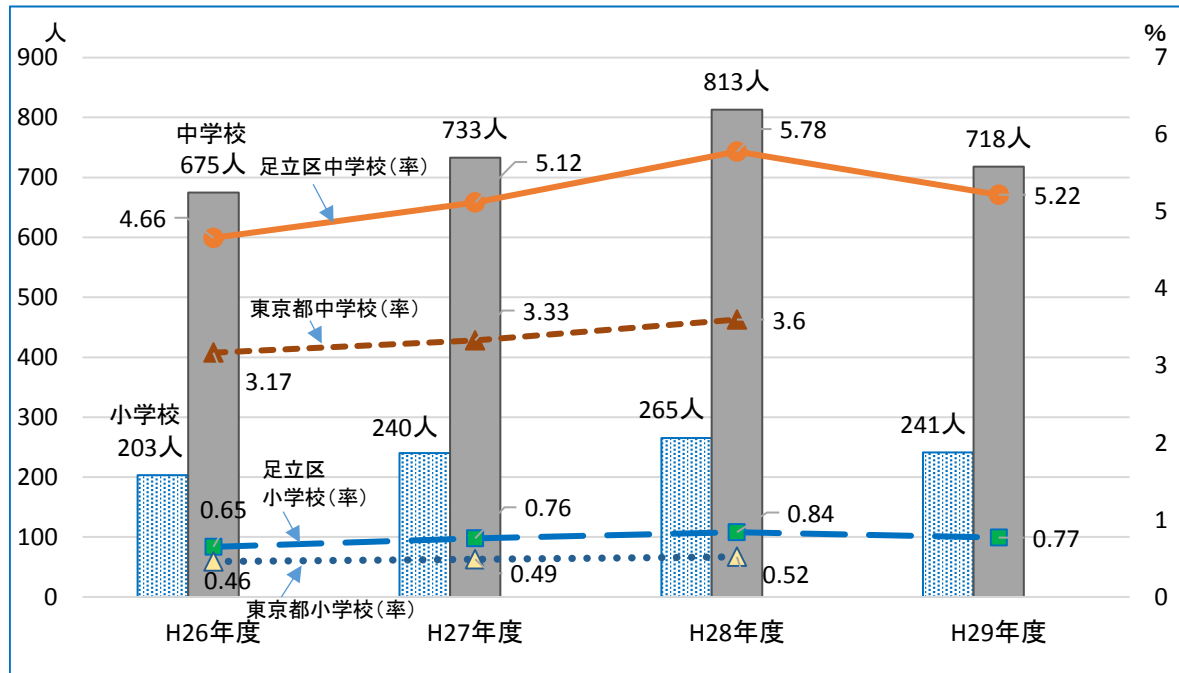
13 小学校・中学校の不登校者数(率)

【データ】児童・生徒の問題行動等の実態について(東京都教育委員会)

【対象】区立小・中学校の児童・生徒

【期間】毎年

【目的】何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因に問題を持つ児童・生徒数を把握する



小学校・中学校の不登校者数は、年々数が増えていたが、平成29年度は減少した。不登校率も同様の動きをしている。

東京都全体の小学校・中学校の不登校率と比較すると、東京都も増加傾向にあるが、小学校・中学校とも足立区の方が高い割合となっている。

14. 早期(37週未満)に産まれた子どもの割合

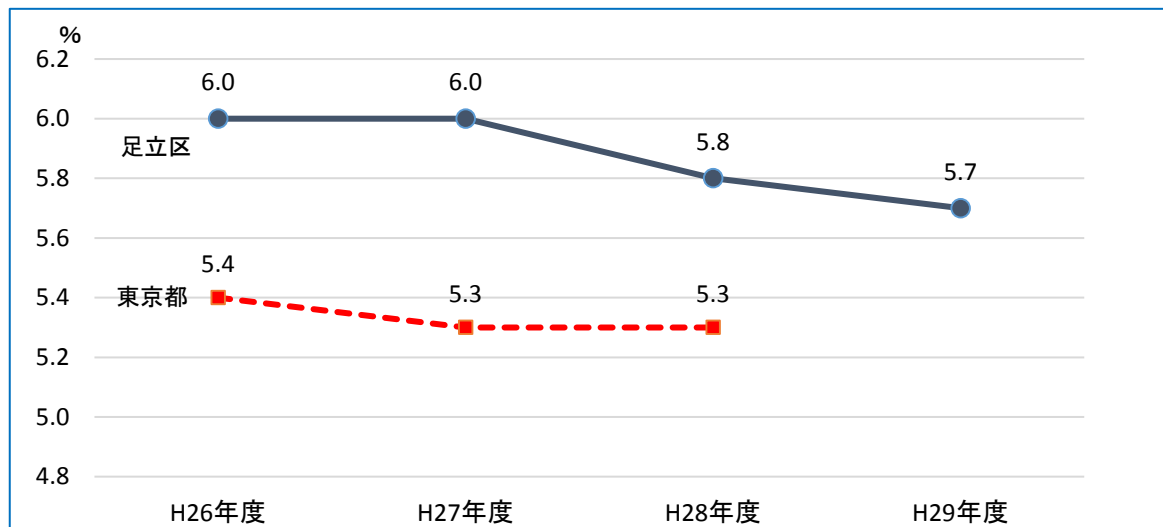
【データ】東京都人口動態統計

【対象】区内出生者数

【期間】毎年

【目的】妊婦に対する支援の成果として発育リスクの高い出産(妊婦)の人数を把握する

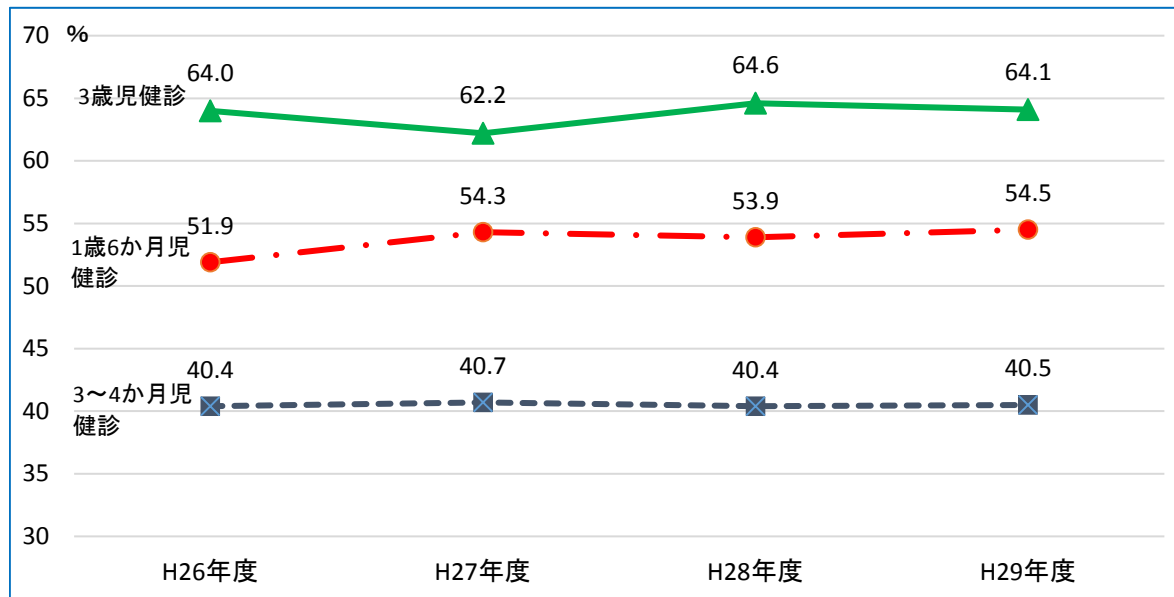
* 早期: 妊娠37週未満 正期: 妊娠37週から42週未満 過期: 妊娠42週以降



早期(37週未満)に生まれた子どもの割合は、東京都全体の値と比較すると高い状況にあるが、年々減少傾向にある。

15 乳児健診のアンケートで「子育てを負担に感じたりイライラしたりする」と回答した人の割合

【データ】3～4か月児、1歳6か月児、3歳児健康診査アンケート
 【対象】乳児健康診査受診者
 【期間】毎年
 【目的】親の育児へのストレス状況を計る

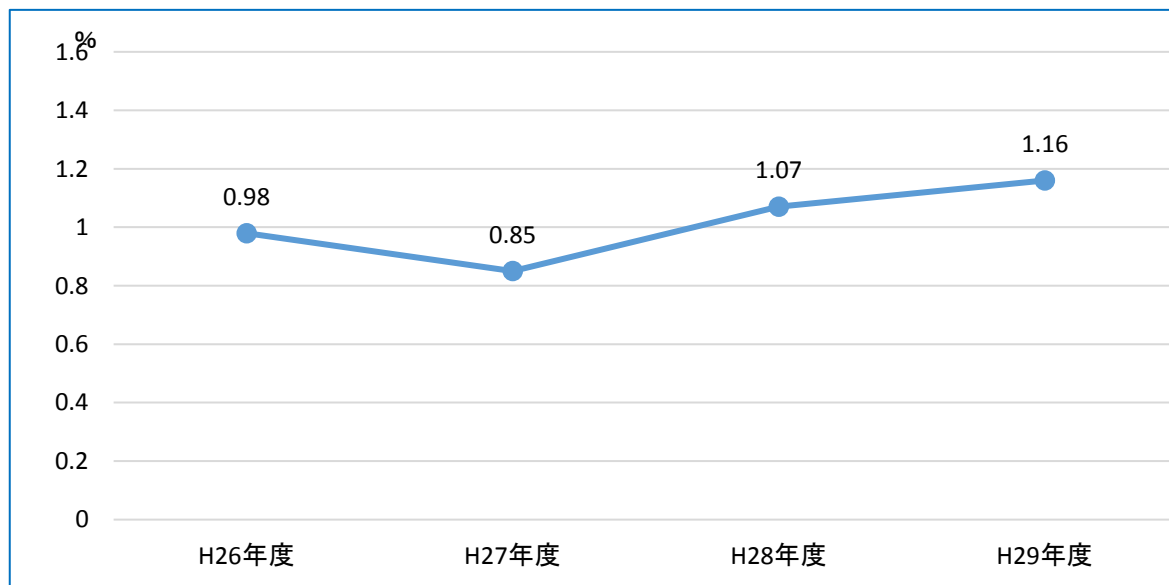


乳児健診のアンケートで「子育てを負担に感じたりイライラしたりする」と回答した人の割合は、過去4年間に於いて、いずれの健診に関しても数値に大きな変化は見られない。子どもの年齢が上がるにつれて、「負担に感じたり、イライラしたりする」割合が上昇している。

16 養育困難世帯の発生率

【データ】こども家庭支援課による集計
 【対象】全養育世帯
 【期間】毎年
 【目的】児童虐待世帯の発生率を計る

* 養育困難世帯: 児童虐待世帯及び今後、児童虐待につながる恐れがある養育に係る課題を抱え、特に養育支援を行う必要があると認められる世帯



養育困難世帯の発生率は、若干の増減はあるものの、上昇傾向にある。

17 養育困難世帯の解決率

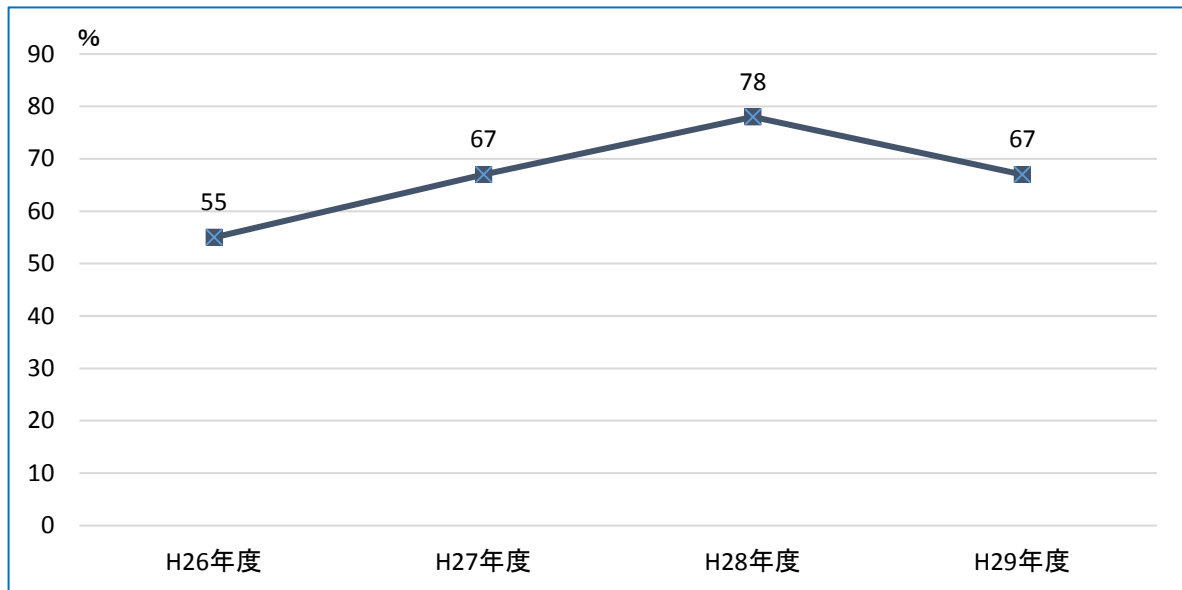
【データ】こども家庭支援課による集計

【対象】養育困難世帯

【期間】毎年

【目的】児童虐待世帯の改善率を計る

* 解決：相談・指導・助言のほか、育児支援や家庭支援を行うことにより養育に係る課題が改善し、児童虐待の恐れが著しく低下したこと



養育困難世帯の解決率は上昇傾向にあったが、平成29年度は前年度より11ポイント減少した。

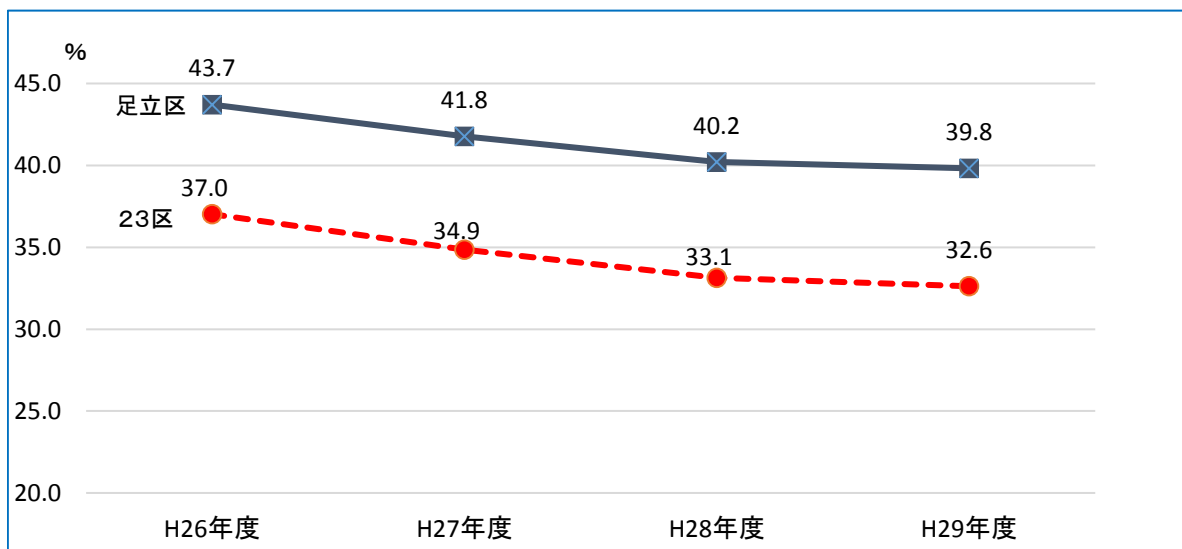
18 歯科健診でむし歯ありの判定を受けた子どもの割合

【データ】東京都学校保健統計書

【対象】区立小学校1年生

【期間】毎年

【目的】子どもの生活環境・成育環境を把握する



歯科健診でむし歯ありの判定を受けた子どもの割合は、減少傾向にあるが、23区とは約7%の差で推移している。

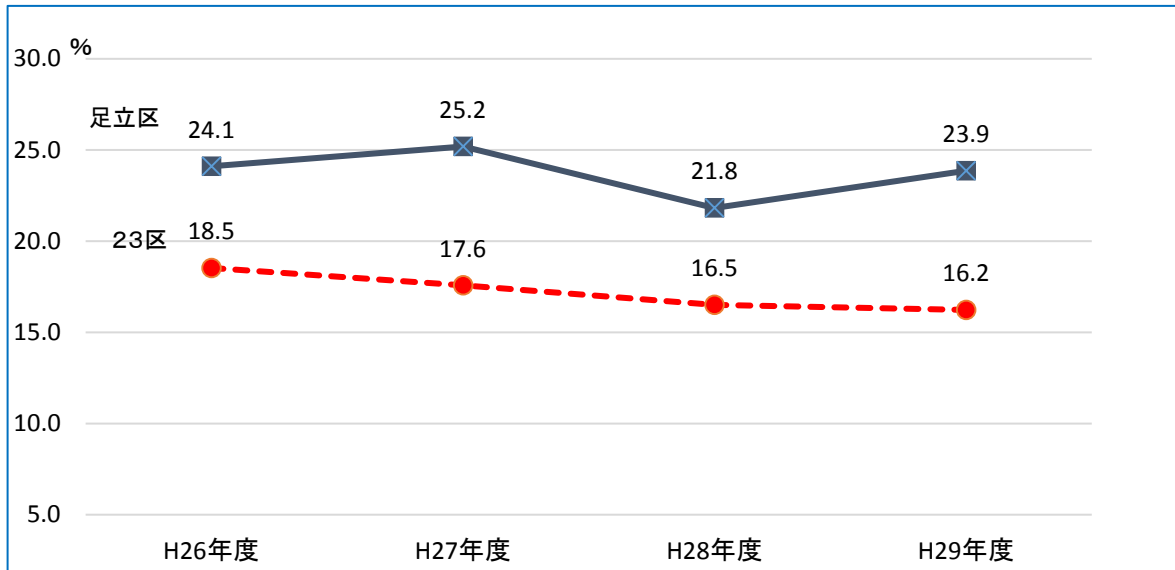
19 歯科健診で未処置のむし歯がある子どもの割合

【データ】東京都学校保健統計書

【対象】区立小学校1年生

【期間】毎年

【目的】子どもの成育環境を把握する(親の子どもへの係わり方を把握する)



歯科健診で未処置のむし歯がある子どもの割合は、若干上下しながら減少傾向で推移している。

20-1 子どもの朝ごはん摂取率(5歳児から中学2年生)

【データ】子ども政策課による集計(区立保育園・こども園)

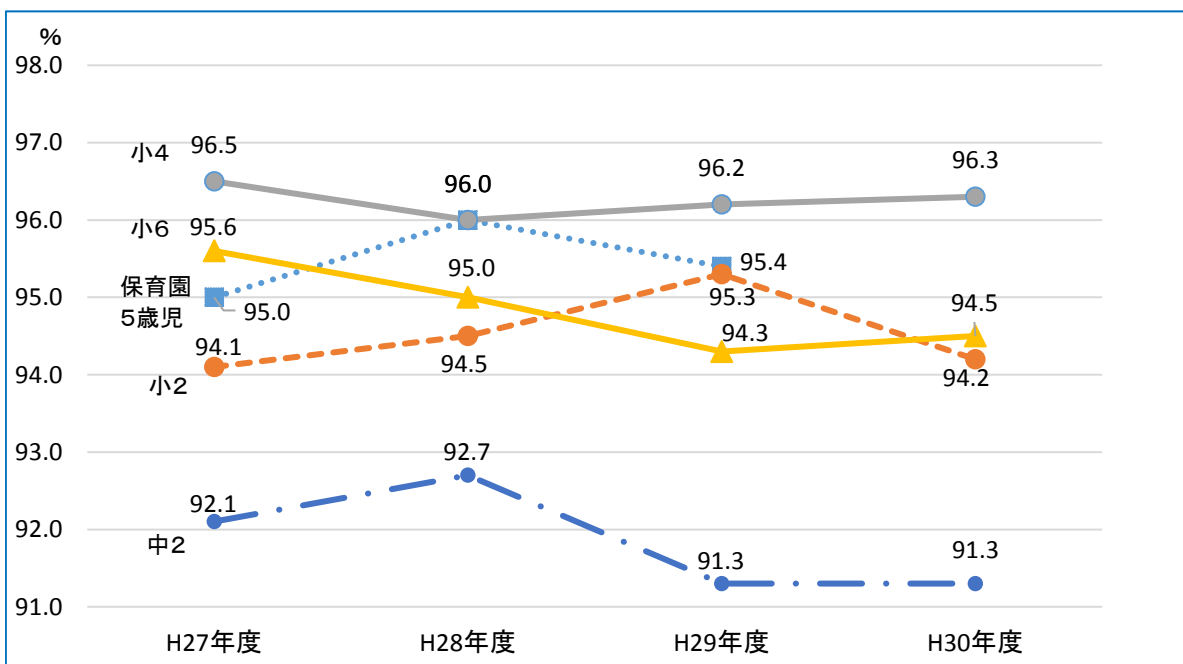
足立区基礎学力定着に関する総合調査(学習意識調査)

【対象】区立保育園・こども園通園児童(5歳児)

区立小学校2、4、6年生 中学校2年生

【期間】毎年

【目的】子どもの正しい生活習慣の定着度を計る

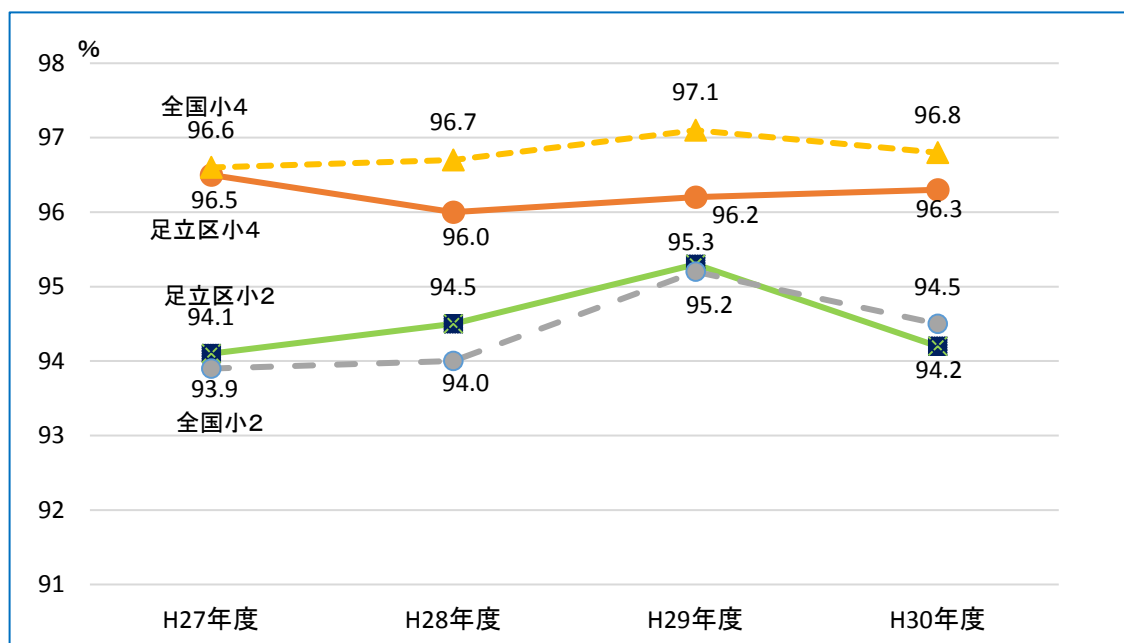


子どもの朝ごはんの摂取率は、平成27年度から一貫して小学4年生が一番高く、中学2年生が一番低い。

小学生までは約95%の摂取率をキープしているが、中学2年生になると約90%に低下する。

20-2 子どもの朝ごはん摂取率(小学2年生・小学4年生 全国との比較)

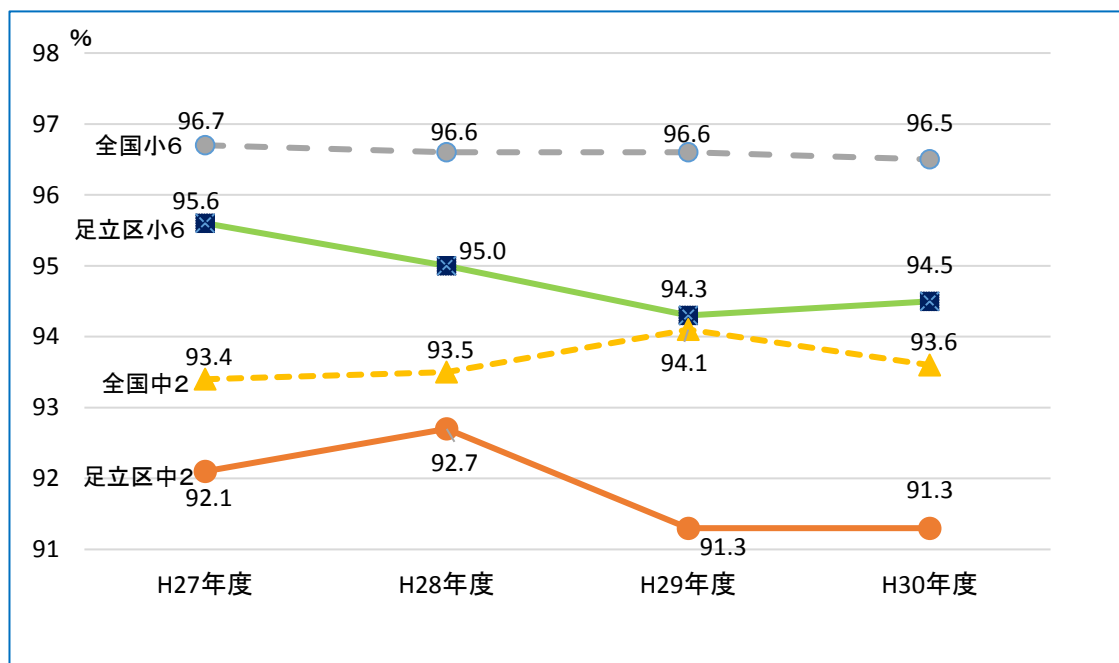
*全国値:区学力調査と同一業者による調査を実施している自治体での平均値



朝ごはんの摂取率は、小学2年生、小学4年生とも全国平均値とそれほど大きな差はない。

20-3 子どもの朝ごはん摂取率(小学6年生・中学2年生 全国との比較)

*全国値:区学力調査と同一業者による調査を実施している自治体での平均値



朝ごはんの摂取率は、小学6年生、中学2年生とも若干ではあるが年々減少傾向にあり、全国平均値との差が広がっている。

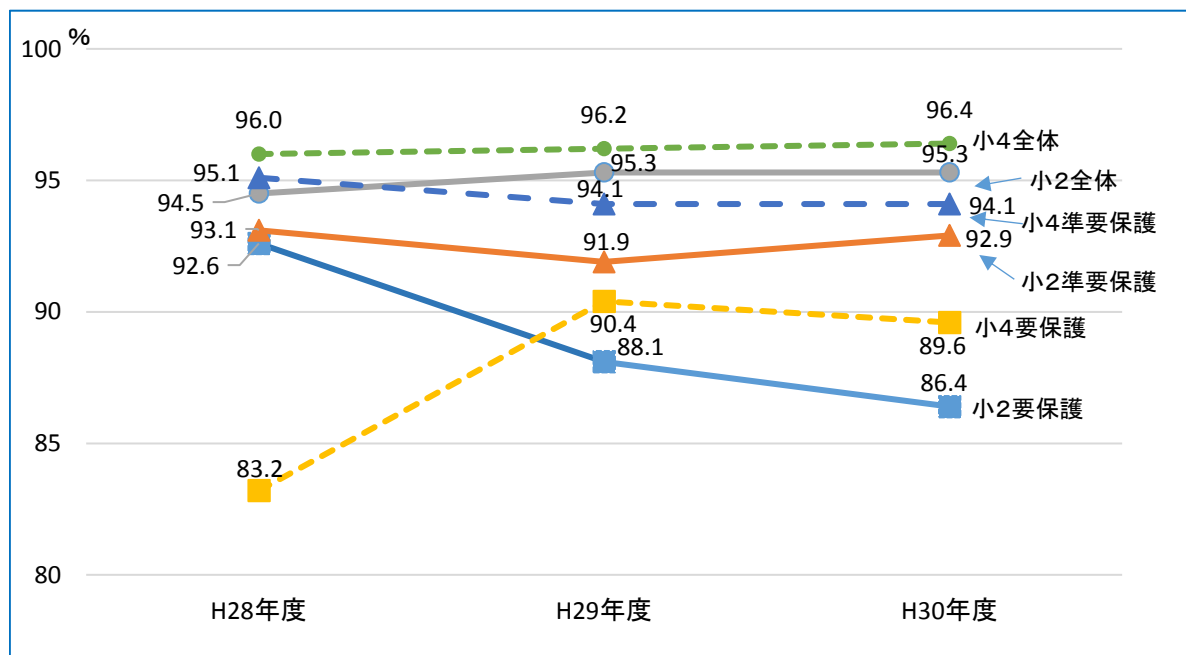
21-1 就学援助(要保護、準要保護)受給世帯の児童・生徒の朝ごはん摂取率 (小学2年生・小学4年生)

【データ】足立区基礎学力定着に関する総合調査(学習意識調査)より抽出

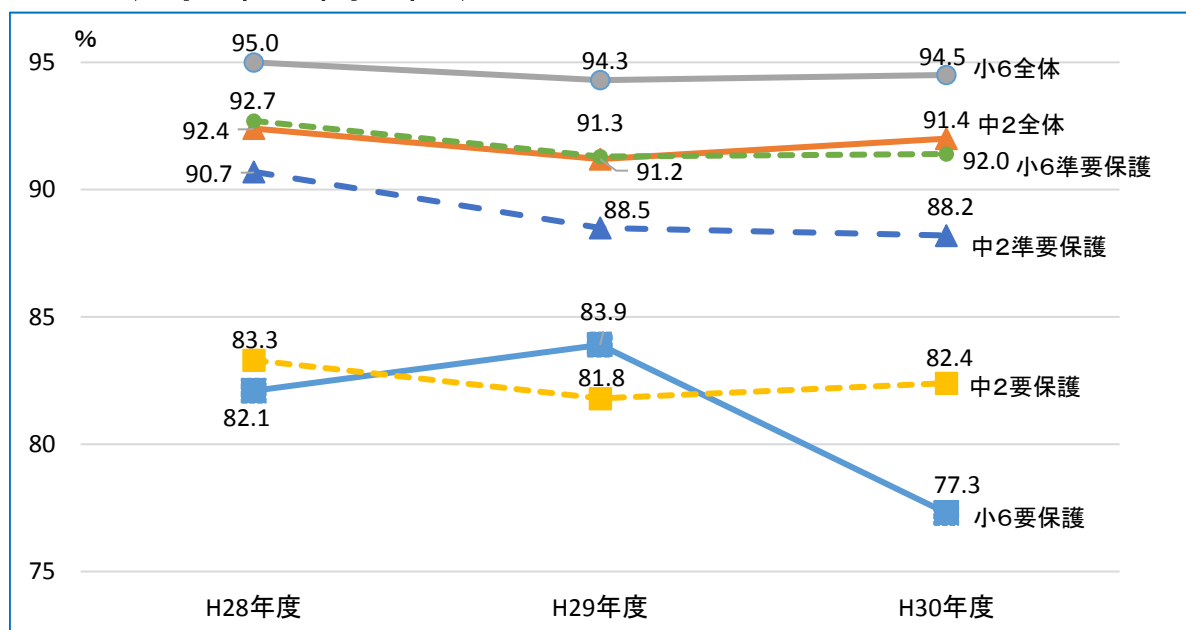
【対象】就学援助受給世帯の小学校2、4、6年生 中学校2年生

【期間】毎年

【目的】児童・生徒の正しい生活習慣の定着度を計る



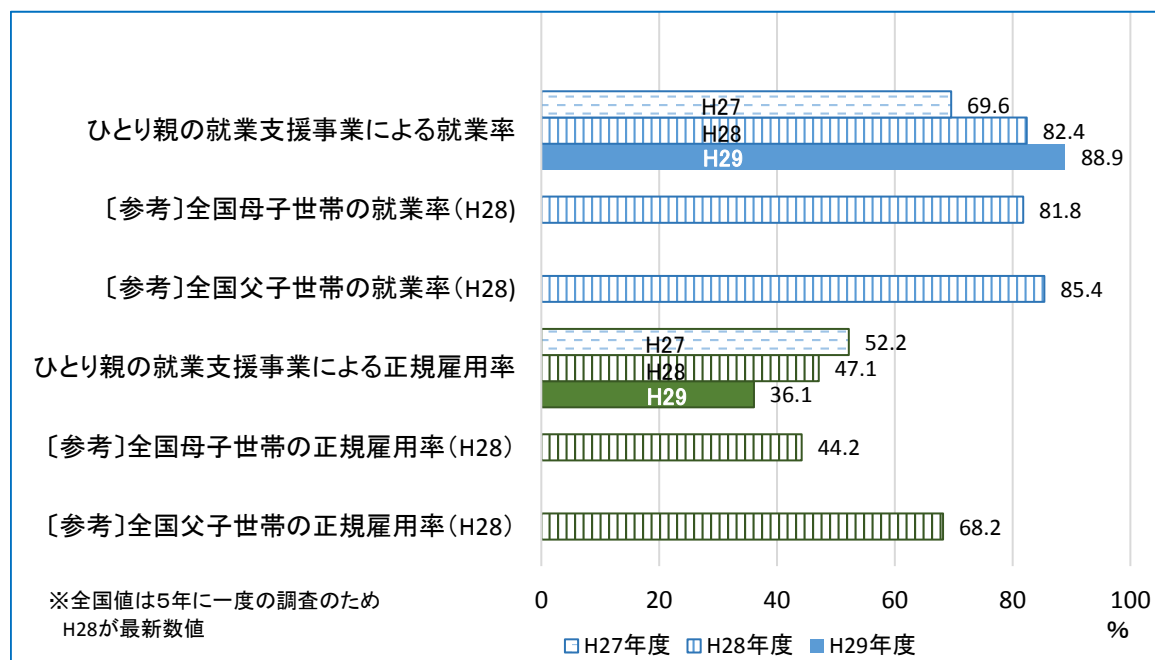
21-2 就学援助(要保護、準要保護)受給世帯の児童・生徒の朝ごはん摂取率 (小学6年生・中学2年生)



準要保護世帯の朝ごはんの摂取率は、区全体の数値と大きな差はないが、要保護世帯の摂取率は区全体と比較すると低い数値になっている。母数が少ないためと思われるが、年度によって数値の変動が大きい。

22 ひとり親に対する就業支援事業による就業率及び正規雇用率

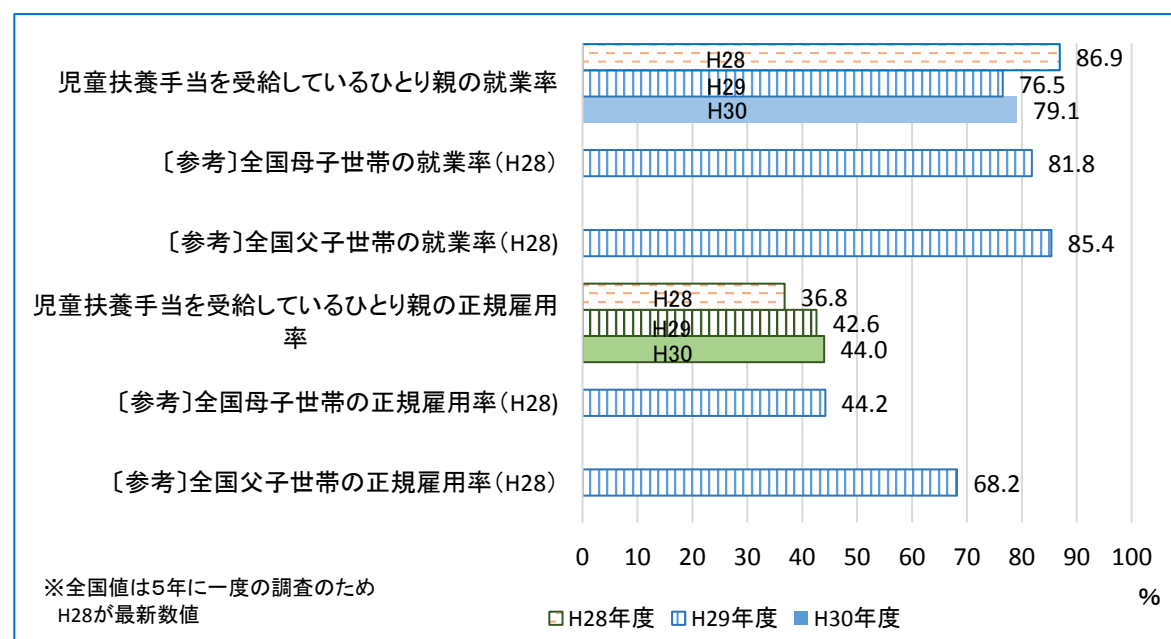
【データ】親子支援課による集計
 【対象】就業支援事業利用者
 【期間】毎年
 【目的】就業支援事業による、ひとり親家庭の就業状況を把握する



ひとり親に対する就業支援事業による就業率は平成27年度から上昇しており、母子世帯の全国平均値を上回っているが、正規雇用率は年々減少している。

23 児童扶養手当を受給しているひとり親の就業率及び正規雇用率

【データ】親子支援課による集計
 【対象】児童扶養手当受給者
 【期間】毎年
 【目的】ひとり親家庭の就業状況を把握する



児童扶養手当を受給しているひとり親の就業率は、8割程度で増減している。正規雇用率は4割程度であるが、年々増加している。

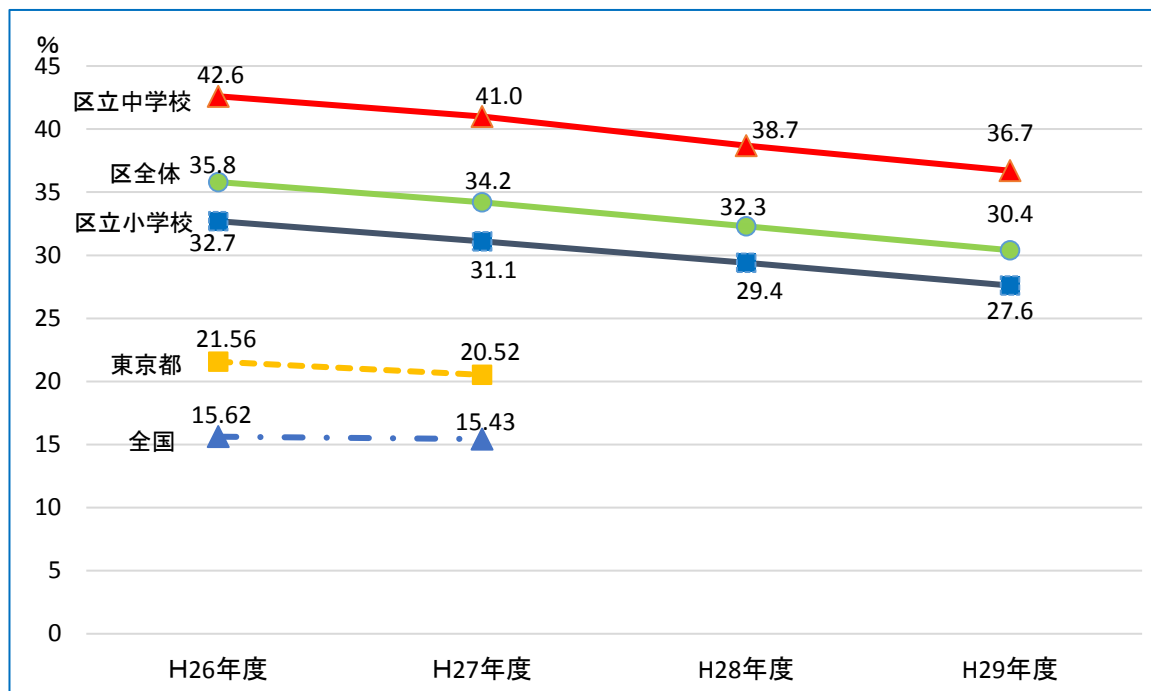
24 就学援助率

【データ】学務課による集計

【対象】小・中学校に通う子どもがいる世帯

【期間】毎年

【目的】小・中学校に通う子どもがいる世帯の経済状況を計る



就学援助率は小学校、中学校とも減少傾向にあるが、東京都や全国平均値とは差が大きい。